

栗東市 障がい福祉についてのアンケート調査
結果報告書（案）

平成 29 年 10 月

栗東市

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、障がいのある人のニーズを踏まえた、障がい福祉サービスの目標値と必要なサービスの見込み量を確保する方策を位置づける「第5期栗東市障がい福祉計画」を策定するにあたり、計画をより実効性のあるものとするため、栗東市にお住まいの障がいのある人が日頃感じていることをおうかがいし、計画づくりのための基礎資料とすることを目的に実施したものです。

2. 調査の方法

- ① 調査対象地域 栗東市全域
- ② 調査対象者 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者
- ③ 調査期間 平成29年8月
- ④ 調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3. 配布・回収数

配付数			回収数			有効回収率
配付数	宛先不明	有効配付数	回収数	白紙回答	有効回収数	
2,585	10	2,575	1,502	1	1,501	58.3%

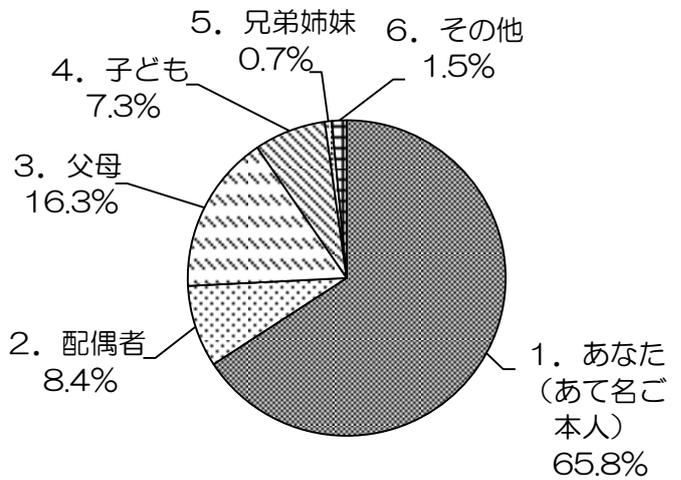
4. 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。

調査結果

問 アンケートに直接記入していただく方はどなたですか。代理の方である場合は、ご本人との関係をお答えください。（あてはまるもの1つ）【N=1,432】

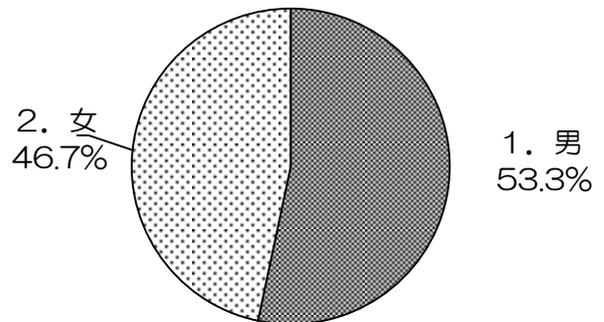
アンケート回答者は、「あなた（あて名のご本人）」が65.8%、「父母」が16.3%、「配偶者」が8.4%、「子ども」が7.3%の順となっています。



障がい者（ご本人）のことがいします。

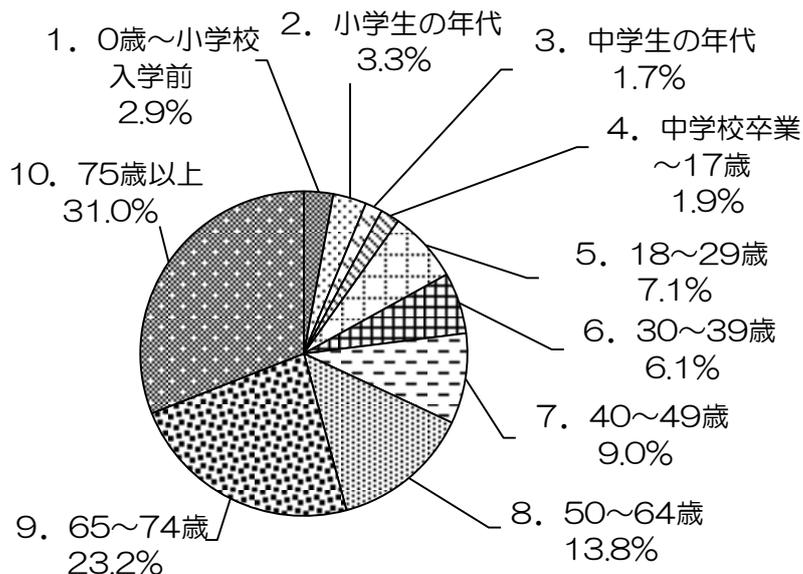
問1 あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）【N=1,487】

性別は、「男」が53.3%、「女」が46.7%と、「男」が「女」を6.6ポイント上回っています。



問2 あなたの年齢もしくは年代をお答えください。(あてはまるもの1つ)【N=1,490】

年齢は、「75歳以上」が31.0%を占め、以下、「65～74歳」(23.2%)、「50～64歳」(13.8%)、「40～49歳」(9.0%)と続いています。



障がい種別クロス

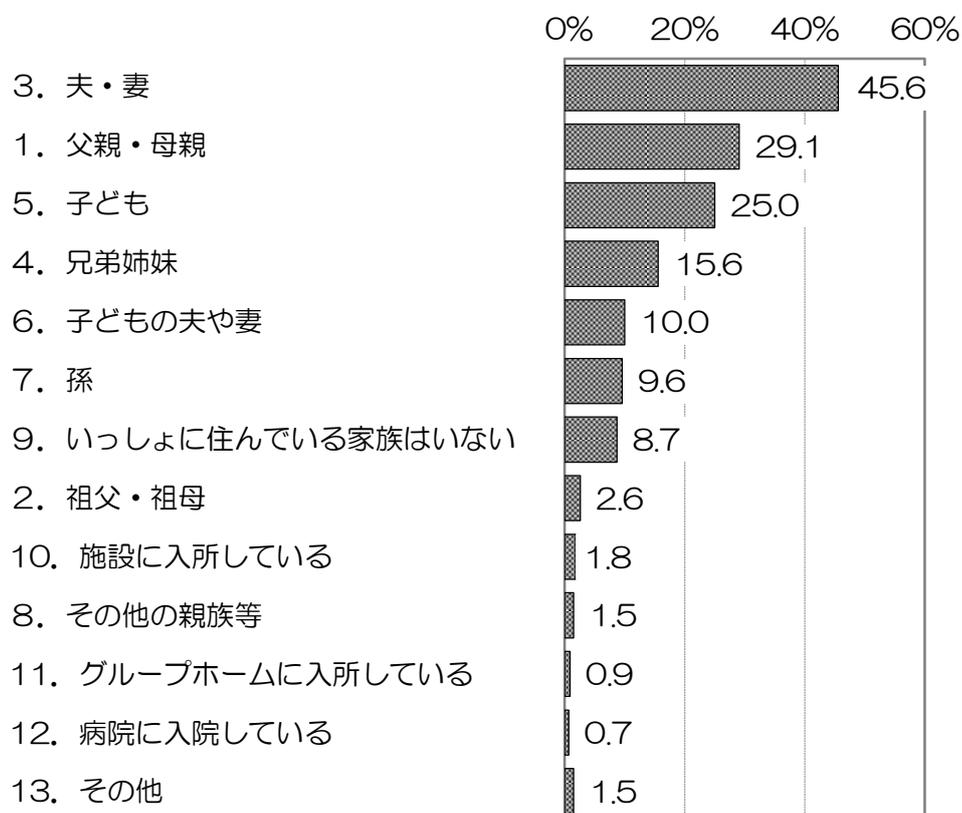
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 0歳～小学校入学前	17 1.5	14 5.3	- -
2. 小学生の年代(おおよそ6～12歳)	16 1.4	34 12.9	1 0.7
3. 中学生の年代(おおよそ12～15歳)	8 0.7	20 7.6	- -
4. 中学校卒業～17歳	2 0.2	22 8.4	3 2.0
5. 18～29歳	21 1.9	73 27.8	20 13.1
6. 30～39歳	36 3.3	35 13.3	29 19.0
7. 40～49歳	66 6.0	29 11.0	42 27.5
8. 50～64歳	160 14.5	20 7.6	32 20.9
9. 65～74歳	333 30.1	3 1.1	15 9.8
10. 75歳以上	448 40.5	13 4.9	11 7.2
全体	1107 100.0	263 100.0	153 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』では「75歳以上」(40.5%)が、『知的障がい』では「18～29歳」(27.8%)が、『精神障がい』では「40～49歳」(27.5%)が、それぞれ最も高くなっています。

『身体障がい』は65歳以上の高齢者が7割を超えているのに対し、『知的障がい』と『精神障がい』は65歳未満が8割を超えており、特に、『知的障がい』では93.9%に上っています。

問3 あなたがいっしょに住んでいるご家族はだれかをお答えください。(あてはまるものすべて) ※あなたからみた関係性でお答えください。【N=1,487】

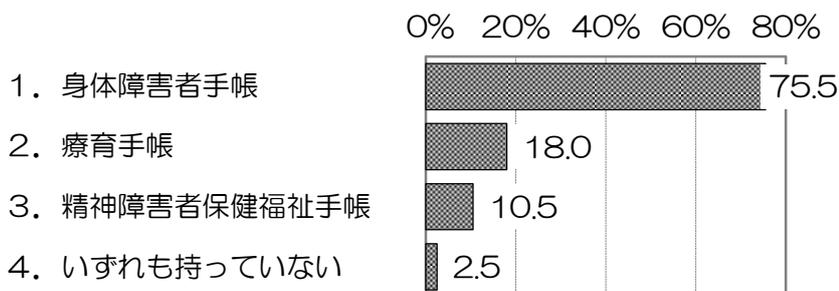
同居家族については、「夫・妻」が45.6%で最も高く、次いで、「父親・母親」(29.1%)、「子ども」(25.0%)が続いています。



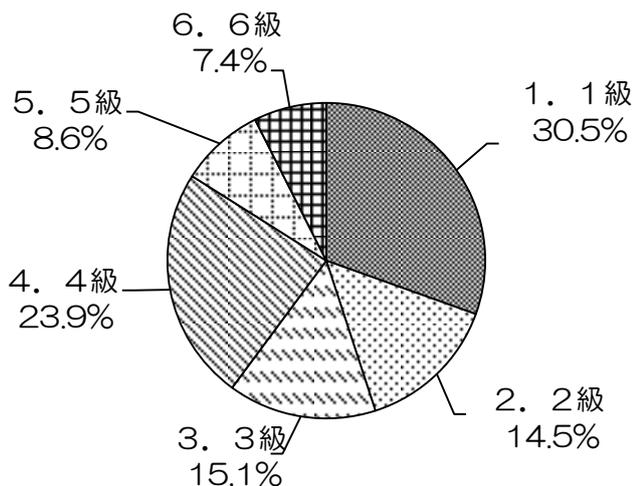
問4 あなたがお持ちの「障害種別手帳」の種類と「等級」をそれぞれお答えください。(あてはまるものすべて)【N=1,471】

障害種別手帳については、「身体障害者手帳」が75.5%、「療育手帳」が18.0%、「精神障害者保健福祉手帳」が10.5%、「いずれも持っていない」が2.5%となっています。

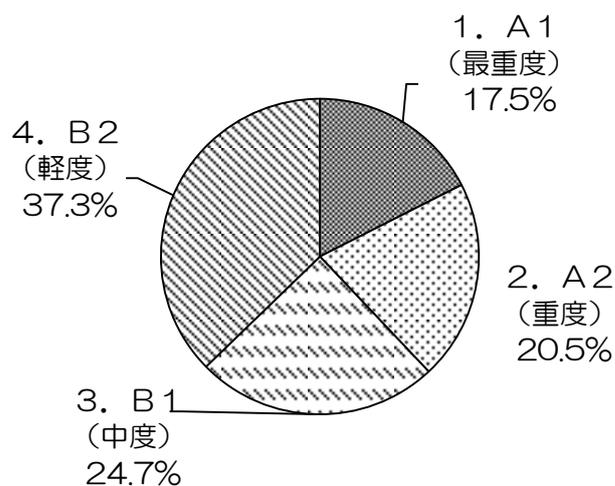
等級については、「身体障害者手帳」では「1級」が30.5%で最も高く、「4級」(23.9%)、「3級」(15.1%)の順となっています。「療育手帳」では「B2(軽度)」が37.3%で最も高く、「B1(中度)」(24.7%)、「A2(重度)」(20.5%)の順となっています。「精神障害者保健福祉手帳」では「2級」が55.8%で最も高く、「3級」(31.8%)、「1級」(12.3%)の順となっています。



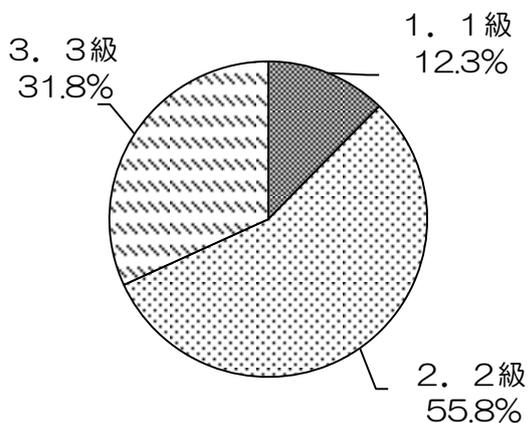
身体障害者手帳【N=1,092】



療育手帳【N=263】



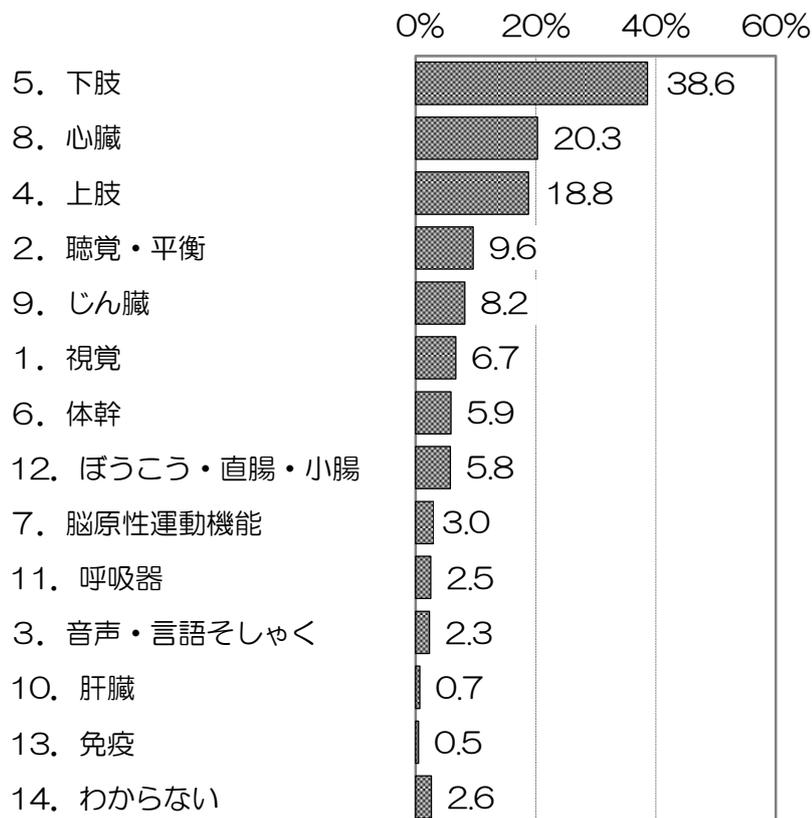
精神障害者手帳【N=154】



問4で「1. 身体障害者手帳」を選んだ方におうかがいします。

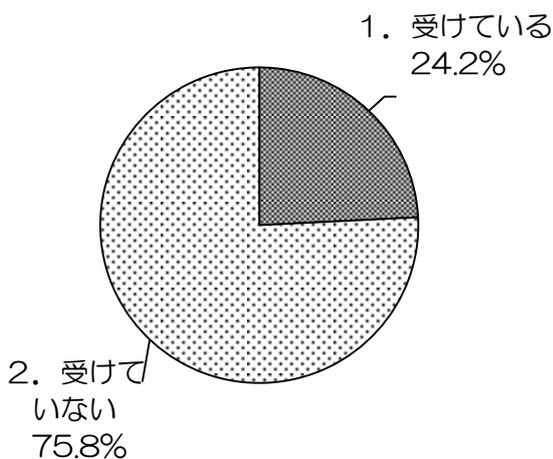
問4-1 あなたの身体障害者手帳に記載されている障がい名をお答えください。（あてはまるものすべて）【N=1,058】

障がい名については、「下肢」が38.6%で最も高く、次いで、「心臓」(20.3%)、「上肢」(18.8%)と続いています。



問5 あなたは、介護保険制度の要支援・要介護認定を受けていますか。(あてはまるもの1つ)
【N=1,370】

介護保険制度の要支援・要介護認定については、「受けている」は24.2%、「受けていない」は75.8%となっており、およそ4人に1人が認定を受けている状況です。



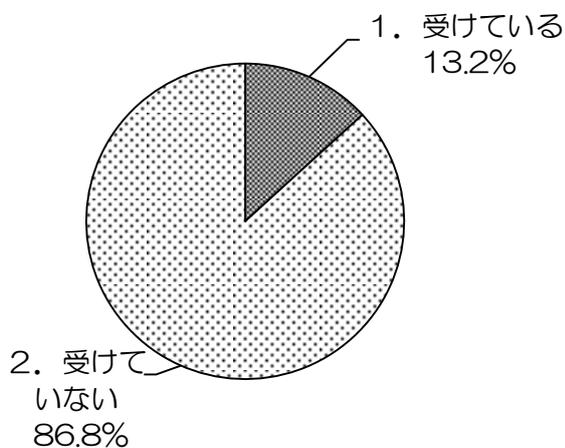
障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 受けている	309 29.9	29 12.5	14 10.5
2. 受けていない	724 70.1	203 87.5	119 89.5
全体	1033 100.0	232 100.0	133 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』では3人に1人は認定を受けていますが、『知的障がい』、『精神障がい』では約9割が認定を受けていません。

問6 あなたは、発達障害診断を受けていますか。(あてはまるもの1つ) 【N=1,292】

発達障害診断については、「受けている」は13.2%、「受けていない」は86.8%となっています



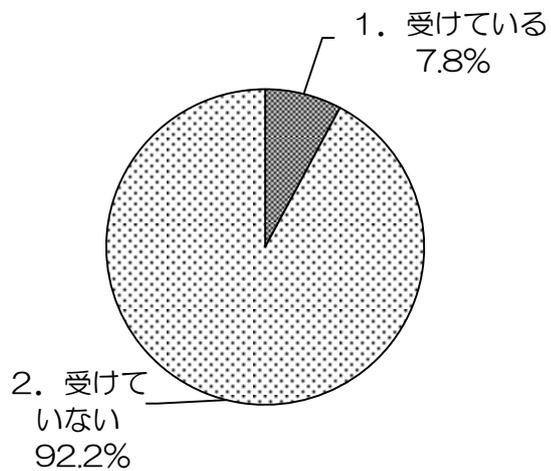
障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 受けている	34 3.5	117 52.5	28 21.5
2. 受けていない	928 96.5	106 47.5	102 78.5
全体	962 100.0	223 100.0	130 100.0

障がい種別にみると、『知的障がい』では 52.5%が認定を受けており、『精神障がい』でも 21.5%が受けています。

問7 あなたは、難病認定を受けていますか。(あてはまるもの1つ)【N=1,304】

難病認定については、「受けている」は 7.8%、「受けていない」は 92.2%となっており、9割以上が認定は受けていません。



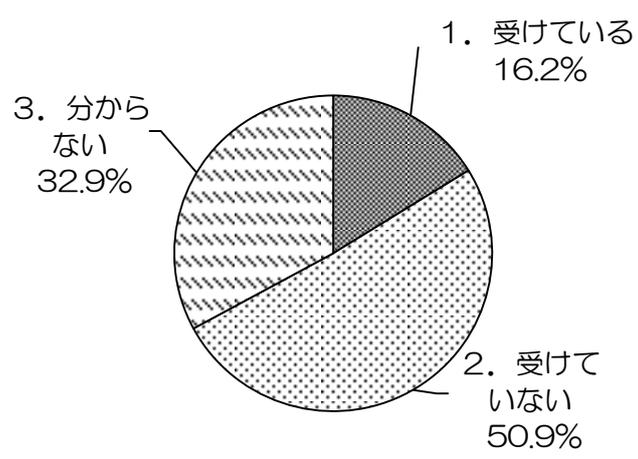
障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 受けている	91 9.4	12 5.4	5 3.8
2. 受けていない	879 90.6	212 94.6	127 96.2
全体	970 100.0	224 100.0	132 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも 9割以上が認定は受けていませんが、『身体障がい』では 1割弱が認定を受けています。

問8 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。(あてはまるもの1つ)【N=1,298】

障害支援区分の認定については、「受けている」は16.2%、「受けていない」は50.9%となっています。



障がい種別クロス

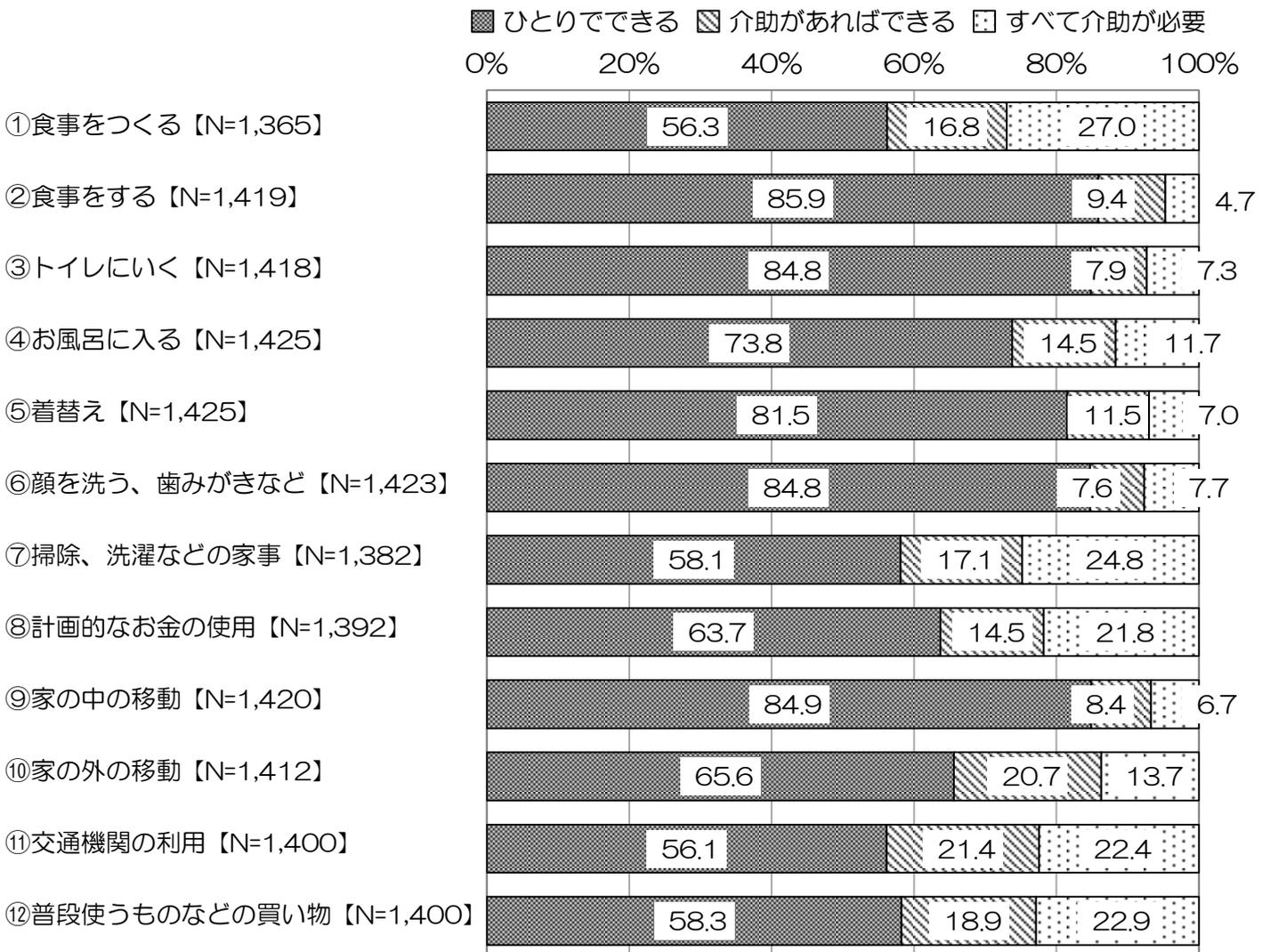
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 受けている	136 14.2	71 31.3	20 15.2
2. 受けていない	545 56.7	73 32.2	41 31.1
3. 分からない	280 29.1	83 36.6	71 53.8
全体	961 100.0	227 100.0	132 100.0

障がい種別にみると、『知的障がい』では31.3%が認定を受けており、他に比べて高くなっています。また、『精神障がい』では15.2%が、『身体障がい』では14.2%が認定を受けています。

あなたの日常生活についておうかがいします。

問9 あなたは次の①～⑫の日常生活の項目についてどの程度できますか。(それぞれの項目のあてはまるもの1つ)

日常生活の項目について、「介助があればできる」、「すべて介助が必要」を合わせた『要介助者』は、「食事をつくる」(43.8%)、「掃除、洗濯などの家事」(41.9%)、「交通機関の利用」(43.8%)、「普段使うものなどの買い物」(41.8%)などで4割を超えています。また、「計画的なお金の使用」(36.3%)、「家の外の移動」(34.4%)では3割を超えています。



障がい種別クロス

【身体障がい】

日常生活の項目	ひとりでできる		介助があればできる		すべて介助が必要		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
① 食事をつくる	619	61.4	137	13.6	252	25.0	1008	100.0
② 食事をする	891	85.1	96	9.2	60	5.7	1047	100.0
③ トイレに行く	882	84.3	73	7.0	91	8.7	1046	100.0
④ お風呂に入る	774	73.3	141	13.4	141	13.4	1056	100.0
⑤ 着替え	856	81.2	105	10.0	93	8.8	1054	100.0
⑥ 顔を洗う、歯みがきなど	913	86.7	49	4.7	91	8.6	1053	100.0
⑦ 掃除、洗濯などの家事	646	63.5	133	13.1	239	23.5	1018	100.0
⑧ 計画的なお金の使用	751	72.8	101	9.8	179	17.4	1031	100.0
⑨ 家の中の移動	851	81.3	105	10.0	91	8.7	1047	100.0
⑩ 家の外の移動	681	65.4	195	18.7	165	15.9	1041	100.0
⑪ 交通機関の利用	608	58.7	186	18.0	242	23.4	1036	100.0
⑫ 普段使うものなどの買い物	635	61.4	171	16.5	229	22.1	1035	100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』では、「交通機関の利用」(41.4%)で『要介助者』が4割を超えています。また、「食事をつくる」(38.6%)、「掃除、洗濯などの家事」(36.6%)、「家の外の移動」(34.6%)、「普段使うものなどの買い物」(38.6%)などで3割を超えています。

【知的障がい】

日常生活の項目	ひとりでできる		介助があればできる		すべて介助が必要		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
① 食事をつくる	59	23.9	65	26.3	123	49.8	247	100.0
② 食事をする	187	74.2	42	16.7	23	9.1	252	100.0
③ トイレに行く	184	73.0	35	13.9	33	13.1	252	100.0
④ お風呂に入る	152	60.6	55	21.9	44	17.5	251	100.0
⑤ 着替え	172	68.5	51	20.3	28	11.2	251	100.0
⑥ 顔を洗う、歯みがきなど	167	66.0	45	17.8	41	16.2	253	100.0
⑦ 掃除、洗濯などの家事	67	26.9	69	27.7	113	45.4	249	100.0
⑧ 計画的なお金の使用	53	21.4	67	27.0	128	51.6	248	100.0
⑨ 家の中の移動	208	82.5	20	7.9	24	9.5	252	100.0
⑩ 家の外の移動	127	50.4	77	30.6	48	19.0	252	100.0
⑪ 交通機関の利用	86	34.4	75	30.0	89	35.6	250	100.0
⑫ 普段使うものなどの買い物	81	32.1	68	27.0	103	40.9	252	100.0

『知的障がい』では、「食事をつくる」(76.1%)、「掃除、洗濯などの家事」(73.1%)、「計画的なお金の使用」(78.6%)で『要介助者』が4割を超えています。また、「交通機関の利用」(65.6%)、「普段使うものなどの買い物」(67.9%)で6割を超えています。

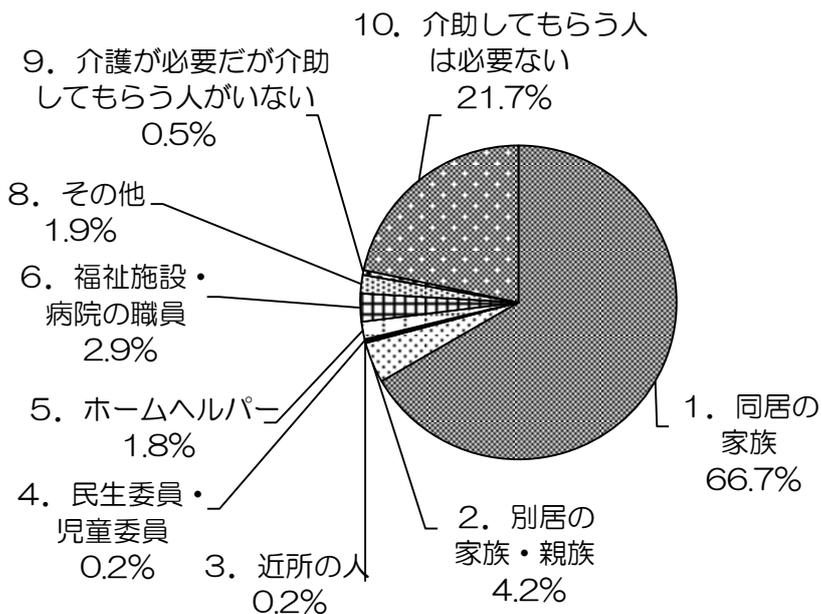
【精神障がい】

日常生活の項目	ひとりでできる		介助があればできる		すべて介助が必要		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
①食事をつくる	81	59.1	38	27.7	18	13.1	137	100.0
②食事をする	137	94.5	5	3.4	3	2.1	145	100.0
③トイレに行く	136	92.5	8	5.4	3	2.0	147	100.0
④お風呂に入る	123	85.4	15	10.4	6	4.2	144	100.0
⑤着替え	128	87.7	15	10.3	3	2.1	146	100.0
⑥顔を洗う、歯みがきなど	133	92.4	8	5.6	3	2.1	144	100.0
⑦掃除、洗濯などの家事	86	61.0	38	27.0	17	12.1	141	100.0
⑧計画的なお金の使用	83	59.3	41	29.3	16	11.4	140	100.0
⑨家の中の移動	133	91.7	9	6.2	3	2.1	145	100.0
⑩家の外の移動	111	77.1	23	16.0	10	6.9	144	100.0
⑪交通機関の利用	91	63.6	35	24.5	17	11.9	143	100.0
⑫普段使うものなどの買い物	96	67.6	29	20.4	17	12.0	142	100.0

『精神障がい』では、「食事をつくる」(40.8%)、「計画的なお金の使用」(40.7%)で『要介助者』が4割を超えています。また、「掃除、洗濯などの家事」(39.1%)、「交通機関の利用」(36.4%)、「普段使うものなどの買い物」(32.4%)などで3割を超えています。

問 10 あなたが主に介助してもらう人はどなたですか。(あてはまるもの1つ)【N=1,320】

主に介助してもらう人については、「同居の家族」が約7割(66.7%)を占め、「別居の家族・親族」が4.2%、「福祉施設・病院の職員」が2.9%となっています。
一方、「介助してもらう人は必要ない」は21.7%となっています。



障がい種別クロス

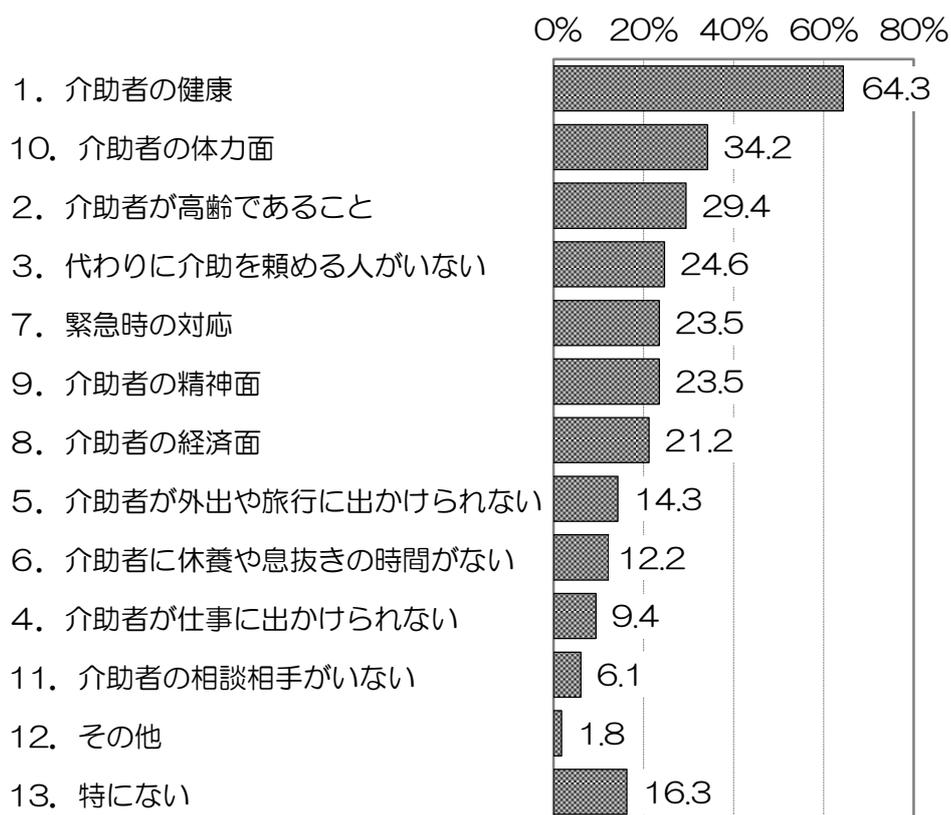
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 同居の家族	629 64.7	196 83.4	75 54.7
2. 別居の家族・親族	48 4.9	4 1.7	3 2.2
3. 近所の人	2 0.2	- -	- -
4. 民生委員・児童委員	2 0.2	1 0.4	2 1.5
5. ホームヘルパー	16 1.6	3 1.3	5 3.6
6. 福祉施設・病院の職員	33 3.4	1 0.4	5 3.6
7. ボランティア	- -	- -	- -
8. その他	19 2.0	5 2.1	7 5.1
9. 介護が必要だが介助してもらう人がいない	6 0.6	1 0.4	1 0.7
10. 介助してもらう人は必要ない	217 22.3	24 10.2	39 28.5
全体	972 100.0	235 100.0	137 100.0

障がい種別に見ると、いずれの障がい種別でも「同居の家族」(64.7%、83.4%、54.7%)が最も高くなっています。

問 10で「1. 同居の家族」、「2. 別居の家族・親族」を選んだ方におうかがいします。

問 10-1 あなたが介助してもらう人（介助者）について、不安や心配に感じていることは何ですか。（あてはまるものすべて）【N=890】

介助者について不安や心配に感じていることについては、「介助者の健康」が64.3%で突出して高く、次いで、「介助者の体力面」（34.2%）、「介助者が高齢であること」（29.4%）と続いています。一方、「特にない」は16.3%となっています。



障がい種別クロス

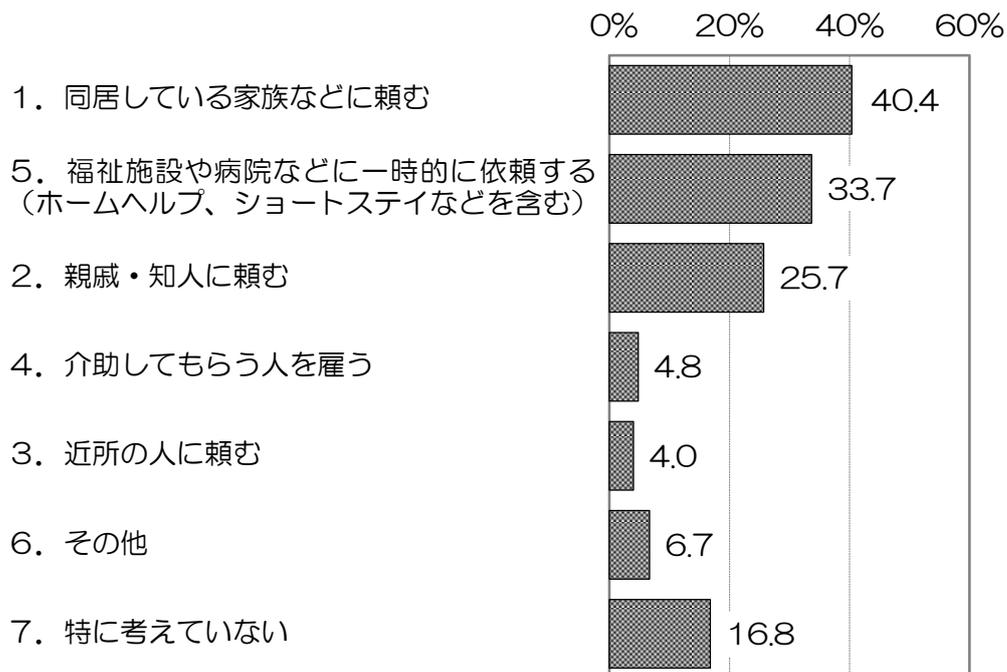
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 介助者の健康	447 69.0	114 60.0	43 56.6
2. 介助者が高齢であること	197 30.4	39 20.5	32 42.1
3. 代わりに介助を頼める人がいない	152 23.5	64 33.7	22 28.9
4. 介助者が仕事に出かけられない	65 10.0	19 10.0	6 7.9
5. 介助者が外出や旅行に出かけられない	104 16.0	31 16.3	3 3.9
6. 介助者に休養や息抜きの時間がない	76 11.7	28 14.7	13 17.1
7. 緊急時の対応	136 21.0	77 40.5	16 21.1
8. 介助者の経済面	130 20.1	51 26.8	21 27.6
9. 介助者の精神面	146 22.5	52 27.4	23 30.3
10. 介助者の体力面	220 34.0	86 45.3	24 31.6
11. 介助者の相談相手がいない	36 5.6	14 7.4	4 5.3
12. その他	10 1.5	4 2.1	1 1.3
13. 特になし	89 13.7	38 20.0	10 13.2
全体	648 100.0	190 100.0	76 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも全体結果と同様に「介助者の健康」(69.0%、60.0%、56.6%)が最も高くなっています。次いで、『身体障がい』、『知的障がい』では「介助者の体力面」(34.0%、45.3%)が、『精神障がい』では「介助者が高齢であること」(42.1%)が続いています。一方、『知的障がい』では「緊急時の対応」が40.5%と、他に比べて高くなっています。

問 10で「1. 同居の家族」、「2. 別居の家族・親族」を選んだ方におうかがいします。

問 10-2 あなたが介助してもらう人が、急病・事故・出産などのため一時的に介助ができなくなった場合、どうすることになっていますか。(あてはまるものすべて)【N=869】

介助者が一時的に介助ができなくなった場合については、「同居している家族などに頼む」が40.4%と最も高く、次いで、「福祉施設や病院などに一時的に依頼する」(33.7%)、「親戚・知人に頼む」(25.7%)と続いています。
一方、「特に考えていない」は16.8%となっています。



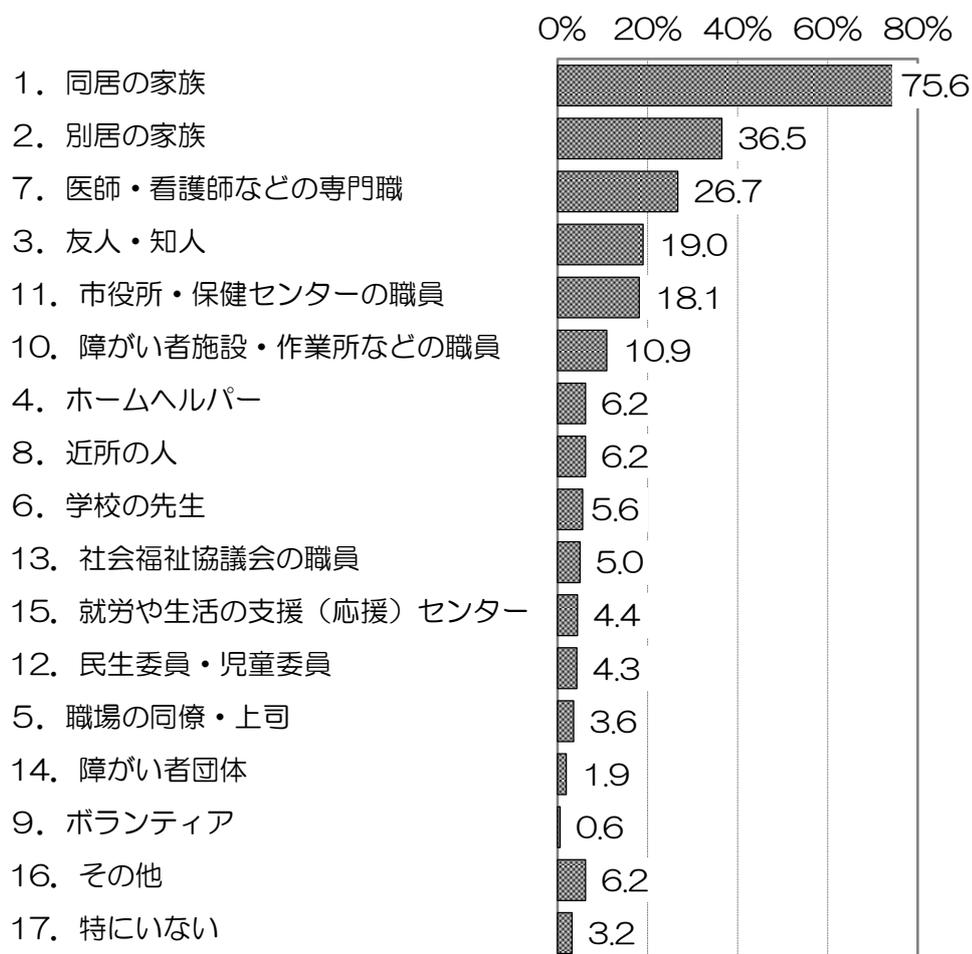
障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 同居している家族などに頼む	231 36.6	99 52.7	28 37.8
2. 親戚・知人に頼む	161 25.5	50 26.6	12 16.2
3. 近所の人に頼む	28 4.4	5 2.7	4 5.4
4. 介助してもらう人を雇う	32 5.1	12 6.4	5 6.8
5. 福祉施設や病院などに一時的に依頼する (ホームヘルプ、ショートステイなどを含む)	224 35.4	74 39.4	16 21.6
6. その他	42 6.6	12 6.4	4 5.4
7. 特に考えていない	108 17.1	19 10.1	19 25.7
全体	632 100.0	188 100.0	74 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも「同居している家族などに頼む」(36.6%、52.7%、37.8%)が最も高くなっています。次いで、『身体障がい』、『知的障がい』では「福祉施設や病院などに一時的に依頼する」(35.4%、39.4%)、『精神障がい』では「特に考えていない」(25.7%)が続いています。

問 11 あなたが困った時に主に相談をする相手は誰ですか。(あてはまるもの上位5つまで)
【N=1,429】

困った時の相談相手については、「同居の家族」が75.6%で突出して高く、次いで、「別居の家族」(36.5%)、「医師・看護師などの専門職」(26.7%)と続いています。



障がい種別クロス

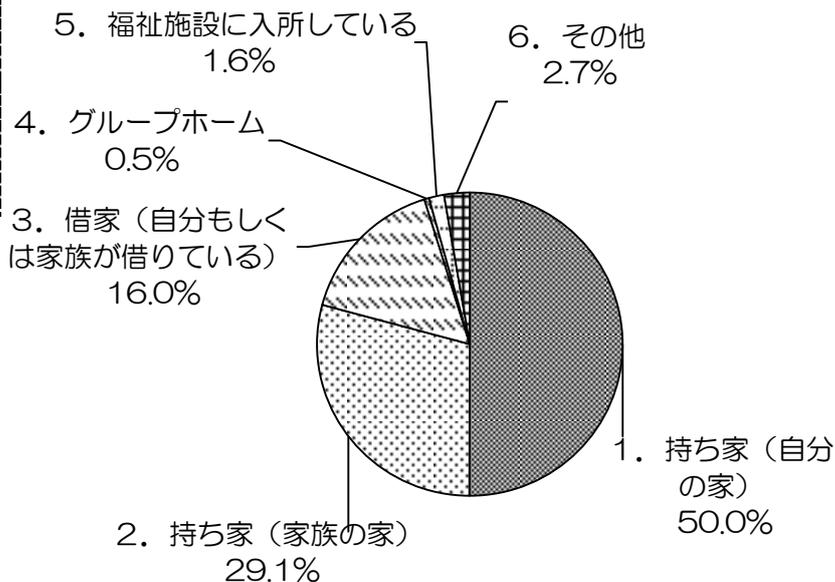
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 同居の家族	802 75.8	192 77.1	97 64.7
2. 別居の家族	436 41.2	55 22.1	40 26.7
3. 友人・知人	203 19.2	44 17.7	29 19.3
4. ホームヘルパー	71 6.7	14 5.6	5 3.3
5. 職場の同僚・上司	30 2.8	15 6.0	7 4.7
6. 学校の先生	16 1.5	65 26.1	3 2.0
7. 医師・看護師などの専門職	284 26.8	39 15.7	68 45.3
8. 近所の人	82 7.8	2 0.8	4 2.7
9. ボランティア	6 0.6	2 0.8	- -
10. 障がい者施設・作業所などの職員	50 4.7	79 31.7	38 25.3
11. 市役所・保健センターの職員	178 16.8	49 19.7	40 26.7
12. 民生委員・児童委員	52 4.9	8 3.2	5 3.3
13. 社会福祉協議会の職員	59 5.6	8 3.2	9 6.0
14. 障がい者団体	20 1.9	6 2.4	2 1.3
15. 就労や生活の支援（応援）センター	30 2.8	20 8.0	15 10.0
16. その他	59 5.6	19 7.6	14 9.3
17. 特にいない	33 3.1	9 3.6	8 5.3
全体	1058 100.0	249 100.0	150 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも全体結果と同様に「同居の家族」(75.8%、77.1%、64.7%)が最も高くなっています。次いで、『身体障がい』では「別居の家族」(41.2%)が、『知的障がい』では「障がい者施設・作業所などの職員」(31.7%)が、『精神障がい』では「医師・看護師などの専門職」(45.3%)が続いています。

一方、『知的障がい』では「学校の先生」が、『精神障がい』では「市役所・保健センターの職員」が、それぞれ26.1%、26.7%と、他に比べて高くなっています。

問 12 あなたの住まいの状況は次のどれにあたりますか。(あてはまるもの1つ)【N=1,470】

住まいの状況については、「持ち家(自分の家)」が半数を占め、次いで、「持ち家(家族の家)」(29.1%)、「借家(自分もしくは家族が借りている)」(16.0%)と続いています。



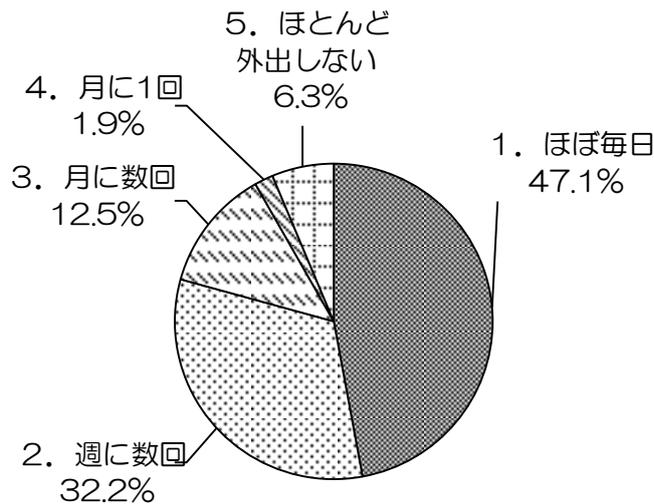
障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 持ち家(自分の家)	656 60.3	54 20.8	38 25.3
2. 持ち家(家族の家)	223 20.5	144 55.4	62 41.3
3. 借家(自分もしくは家族が借りている)	152 14.0	55 21.2	37 24.7
4. グループホーム	2 0.2	2 0.8	3 2.0
5. 福祉施設に入所している	23 2.1	- -	- -
6. その他	31 2.9	5 1.9	10 6.7
全体	1087 100.0	260 100.0	150 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』では「持ち家(自分の家)」(60.3%)が、『知的障がい』、『精神障がい』では「持ち家(家族の家)」(55.4%、41.3%)がそれぞれ最も高くなっています。

問 13 あなたの外出回数はどのくらいですか。(あてはまるもの1つ)【N=1,449】

外出回数については、「ほぼ毎日」が47.1%と約半数を占め、次いで、「週に数回」(32.2%)、「月に数回」(12.5%)と続いています。
一方、「ほとんど外出しない」は6.3%となっています。



障がい種別クロス

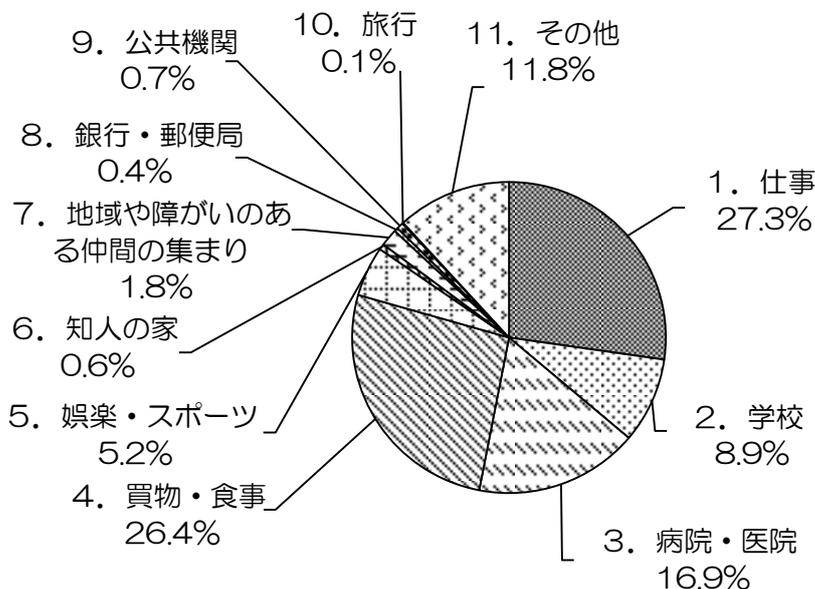
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. ほぼ毎日	442 41.1	177 70.5	63 42.9
2. 週に数回	382 35.5	41 16.3	49 33.3
3. 月に数回	147 13.7	21 8.4	24 16.3
4. 月に1回	23 2.1	3 1.2	2 1.4
5. ほとんど外出しない	82 7.6	9 3.6	9 6.1
全体	1076 100.0	251 100.0	147 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも全体結果と同様に「ほぼ毎日」(41.1%、70.5%、42.9%)が最も高くなっています。
一方、『身体障がい』では「ほとんど外出しない」が7.6%と、全体結果を若干上回っています。

問 13 で 1～4 を選んだ方におうかがいします。

問 13-1 もっとも外出回数が多い外出の目的は何ですか。(あてはまるもの1つ) 【N=1,118】

最も多い外出の目的については、「仕事」が27.3%で最も高く、僅差で「買物・食事」(26.4%)が続いており、以下、「病院・医院」(16.9%)、「その他」(11.8%)、「学校」(8.9%)となっています。



障がい種別クロス

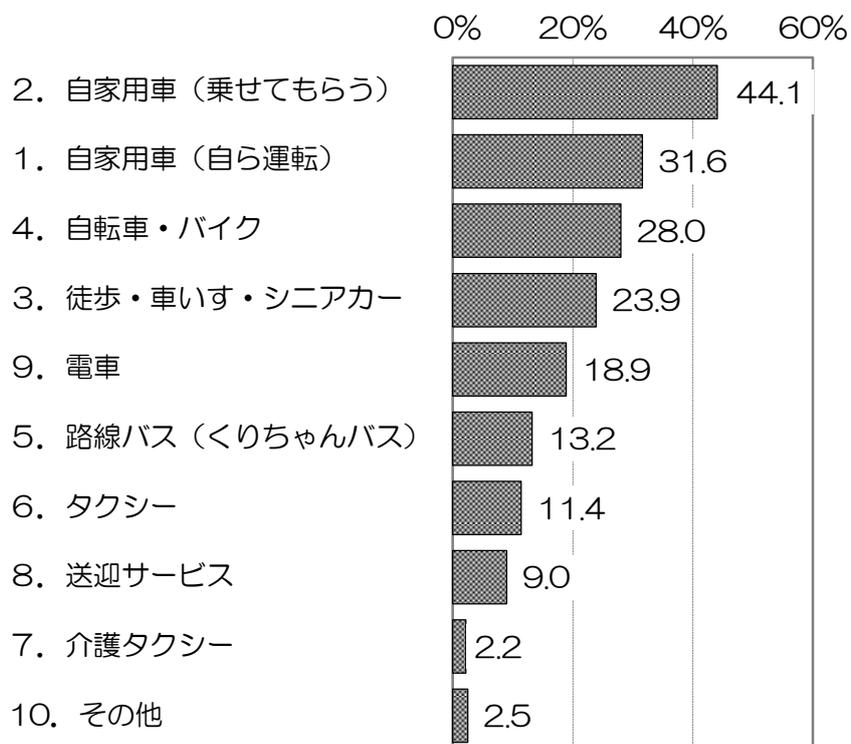
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 仕事	184 22.5	84 43.3	41 36.0
2. 学校	31 3.8	65 33.5	2 1.8
3. 病院・医院	163 20.0	11 5.7	21 18.4
4. 買物・食事	251 30.8	12 6.2	32 28.1
5. 娯楽・スポーツ	47 5.8	4 2.1	2 1.8
6. 知人の家	5 0.6	-	2 1.8
7. 地域や障がいのある仲間の集まり	13 1.6	3 1.5	3 2.6
8. 銀行・郵便局	4 0.5	-	-
9. 公共機関	4 0.5	1 0.5	3 2.6
10. 旅行	1 0.1	-	-
11. その他	113 13.8	14 7.2	8 7.0
全体	816 100.0	194 100.0	114 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』では「買物・食事」(30.8%)が、『知的障がい』、『精神障がい』では「仕事」(43.3%、36.0%)が、それぞれ最も高くなっています。一方、『知的障がい』では「学校」が33.5%と、他に比べて高くなっています。

問 13 で 1～4 を選んだ方におうかがいします。

問 13-2 あなたが外出する時に利用する主な移動手段は何ですか。(あてはまるものすべて)
【N=1,302】

外出時に利用するおもな移動手段については、「自家用車(乗せてもらう)」が 44.1%と最も高く、次いで、「自家用車(自ら運転)」(31.6%)、「自転車・バイク」(28.0%)、「徒歩・車いす・シニアカー」(23.9%)、「電車」(18.9%)と続いています。



障がい種別クロス

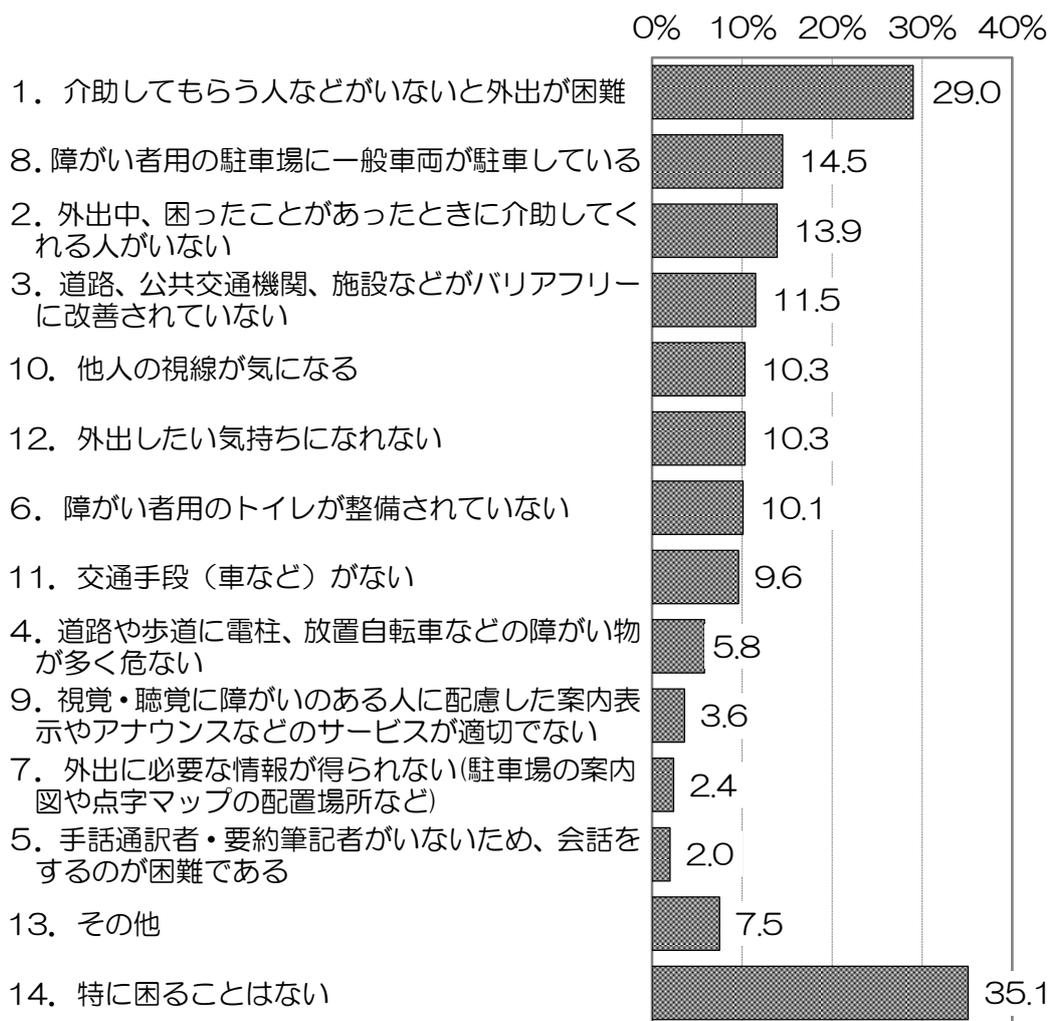
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 自家用車（自ら運転）	367 38.5	13 5.6	40 31.0
2. 自家用車（乗せてもらう）	409 42.9	130 55.6	39 30.2
3. 徒歩・車いす・シニアカー	198 20.8	68 29.1	36 27.9
4. 自転車・バイク	225 23.6	83 35.5	51 39.5
5. 路線バス（くりちゃんバス）	128 13.4	22 9.4	21 16.3
6. タクシー	132 13.8	10 4.3	15 11.6
7. 介護タクシー	29 3.0	- -	- -
8. 送迎サービス	79 8.3	43 18.4	3 2.3
9. 電車	157 16.5	54 23.1	34 26.4
10. その他	16 1.7	16 6.8	6 4.7
全体	954 100.0	234 100.0	129 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』、『知的障がい』では「自家用車（乗せてもらう）」（42.9%、55.6%）が、『精神障がい』では「自転車・バイク」（39.5%）が、それぞれ最も高くなっています。一方、『知的障がい』では「送迎サービス」が18.4%と他に比べて高くなっています。

問 14 あなたが外出する際に困ること、および問題があるため外出が難しくなっていることは何ですか。(あてはまるものすべて)【N=1,325】

外出する際に困ること、および問題があるため外出が難しくなっていることとしては、「介助してもらおう人などがいないと外出が困難」が29.0%と最も高く、次いで、「障がい者用の駐車場に一般車両が駐車している」(14.5%)、「外出中、困ったことがあったときに介助してくれる人がいない」(13.9%)と続いています。

一方、「特に困ることはない」は35.1%となっています。



障がい種別クロス

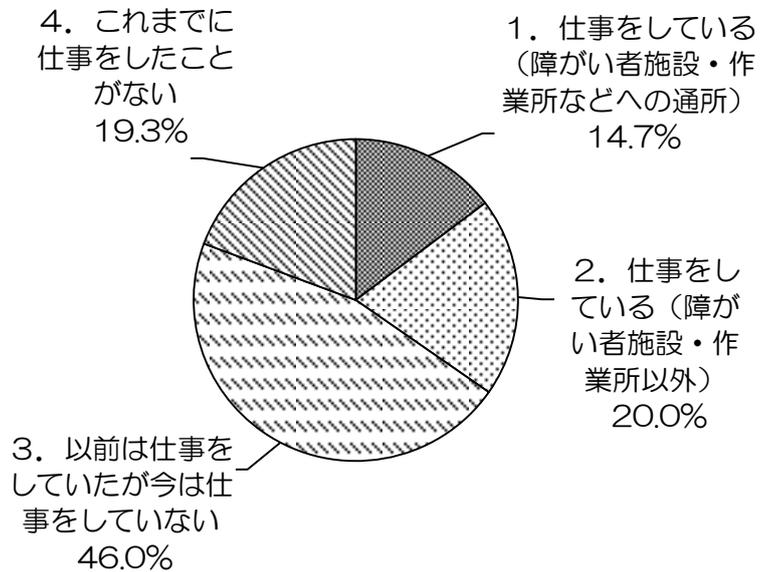
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 介助してもらおう人などがいないと外出が困難	282 28.8	104 43.9	33 23.1
2. 外出中、困ったことがあったときに介助してくれる人がいない	115 11.7	56 23.6	25 17.5
3. 道路、公共交通機関、施設などがバリアフリーに改善されていない	143 14.6	14 5.9	7 4.9
4. 道路や歩道に電柱、放置自転車などの障がい物が多く危ない	71 7.3	5 2.1	3 2.1
5. 手話通訳者・要約筆記者がいないため、会話をするのが困難である	24 2.5	3 1.3	- -
6. 障がい者用のトイレが整備されていない	122 12.5	23 9.7	3 2.1
7. 外出に必要な情報が得られない(駐車場の案内図や点字マップの配置場所など)	24 2.5	4 1.7	5 3.5
8. 障がい者用の駐車場に一般車両が駐車している	179 18.3	19 8.0	11 7.7
9. 視覚・聴覚に障がいのある人に配慮した案内表示やアナウンスなどのサービスが適切でない	44 4.5	1 0.4	1 0.7
10. 他人の視線が気になる	67 6.8	35 14.8	46 32.2
11. 交通手段(車など)がない	90 9.2	17 7.2	22 15.4
12. 外出したい気持ちになれない	91 9.3	11 4.6	36 25.2
13. その他	68 6.9	17 7.2	15 10.5
14. 特に困ることはない	340 34.7	69 29.1	43 30.1
全体	979 100.0	237 100.0	143 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』、『知的障がい』では「介助してもらおう人などがいないと外出が困難」(28.8%、43.9%)が、『精神障がい』では「他人の視線が気になる」(32.2%)が、それぞれ最も高くなっています。次いで、『身体障がい』では「障がいのある人用の駐車場に一般車両が駐車している」(18.3%)が、『知的障がい』では「外出中、困ったことがあったときに介助してくれる人がいない」(23.6%)が、『精神障がい』では「外出したい気持ちになれない」(25.2%)が続いています。

あなたの就労・就学についておうかがいします。

問 15 あなたは現在、仕事（ここでは作業所への通所も含みます）をしていますか。（あてはまるもの1つ）【N=1,318】

仕事については、「以前は仕事をしてきたが今は仕事をしていない」が約半数(46.0%)を占め、「仕事をしている（障がい者施設・作業所以外）」が20.0%、「これまでに仕事をしたことがない」が19.3%、「仕事をしている（障がい者施設・作業所などへの通所）」が14.7%となっています。



障がい種別クロス

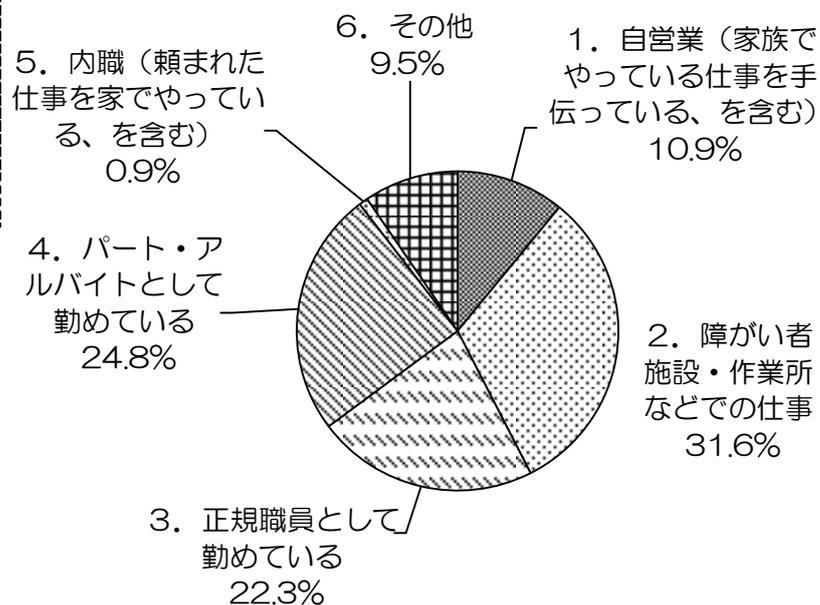
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 仕事をしている（障がい者施設・作業所などへの通所）	71 7.5	95 38.5	34 24.1
2. 仕事をしている（障がい者施設・作業所以外）	204 21.5	34 13.8	27 19.1
3. 以前は仕事をしてきたが今は仕事をしていない	533 56.1	19 7.7	65 46.1
4. これまでに仕事をしたことがない	142 14.9	99 40.1	15 10.6
全体	950 100.0	247 100.0	141 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』、『精神障がい』では「以前は仕事をしてきたが今は仕事をしていない」(56.1%、46.1%)が、『知的障がい』では「これまでに仕事をしたことがない」(40.1%)が、それぞれ最も高くなっています。

問 15 で 1、2 を選んだ方におうかがいします。

問 15-1 現在している仕事は何ですか。(あてはまるもの1つ) 【N=440】

現在している仕事については、「障がい者施設・作業所などでの仕事」が 31.6%と最も高く、次いで、「パート・アルバイトとして勤めている」(24.8%)、「正規職員として勤めている」(22.3%)と続いています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 自営業 (家族でやっている仕事を手伝っている、を含む)	43 16.5	2 1.6	4 6.6
2. 障がい者施設・作業所などでの仕事	26 10.0	87 69.0	29 47.5
3. 正規職員として勤めている	80 30.7	11 8.7	8 13.1
4. パート・アルバイトとして勤めている	78 29.9	21 16.7	14 23.0
5. 内職 (頼まれた仕事を家でやっている、を含む)	3 1.1	-	1 1.6
6. その他	31 11.9	5 4.0	5 8.2
全体	261 100.0	126 100.0	61 100.0

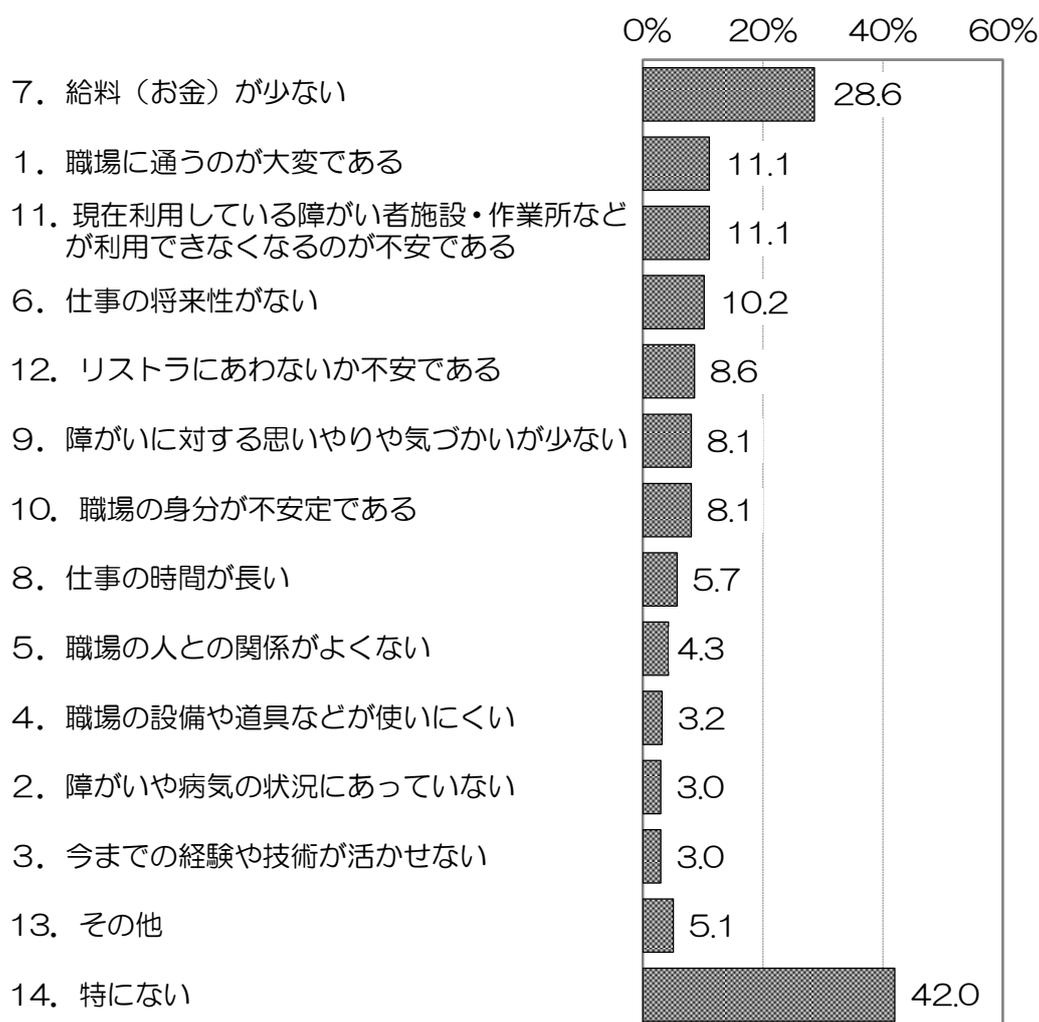
障がい種別にみると、『身体障がい』では「正規職員として勤めている」(30.7%)が、『知的障がい』、『精神障がい』では「障がい者施設・作業所などでの仕事」(69.0%、47.5%)が、それぞれ最も高くなっています。

問 15 で 1、2 を選んだ方におうかがいします。

問 15-2 現在している仕事について不安や不満はありますか。(あてはまるもの3つまで)
【N=371】

現在している仕事についての不安や不満としては、「給料(お金)が少ない」が 28.6% で高くなっています。次いで、「職場に通うのが大変である」、「現在利用している障がい者施設・作業所などが利用できなくなるのが不安である」が同率(11.1%)、「仕事の将来性がない」(10.2%)などが続いています。いずれも 1 割程度と少なくなっています。

一方、「特にない」は 42.0% と高くなっています。



障がい種別クロス

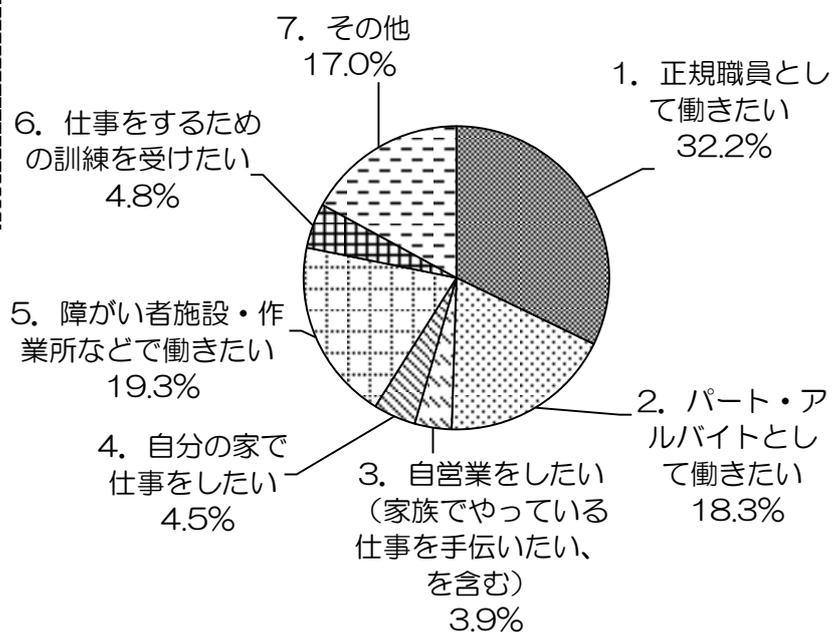
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 職場に通うのが大変である	23 10.6	10 9.3	11 20.4
2. 障がいや病気の状況にあっていない	7 3.2	1 0.9	3 5.6
3. 今までの経験や技術が活かさない	4 1.8	1 0.9	5 9.3
4. 職場の設備や道具などが使いにくい	10 4.6	1 0.9	- -
5. 職場の人との関係がよくない	4 1.8	10 9.3	2 3.7
6. 仕事の将来性がない	17 7.8	10 9.3	12 22.2
7. 給料（お金）が少ない	47 21.6	39 36.1	24 44.4
8. 仕事の時間が長い	20 9.2	1 0.9	2 3.7
9. 障がいに対する思いやりや気づきが少ない	20 9.2	6 5.6	5 9.3
10. 職場の身分が不安定である	14 6.4	8 7.4	8 14.8
11. 現在利用している障がい者施設・作業所などが利用できなくなるのが不安である	9 4.1	28 25.9	9 16.7
12. リストラにあわないか不安である	15 6.9	11 10.2	6 11.1
13. その他	10 4.6	5 4.6	4 7.4
14. 特にない	107 49.1	34 31.5	14 25.9
全体	218 100.0	108 100.0	54 100.0

障がい種別に見ると、いずれの障がい種別でも、現在している仕事についての不安や不満としては、「給料(お金)が少ない」(21.6%、36.1%、44.4%)が最も高くなっています。
一方、『身体障がい』では「特にない」が49.1%と、全体結果を上回っています。

問 15 で 1、2 を選んだ方におうかがいします。

問 15-3 今後の仕事についてどのようにお考えですか。(あてはまるもの1つ)【N=311】

今後の仕事については、「正規職員として働きたい」が32.2%と最も高く、次いで、「障がい者施設・作業所などで働きたい」(19.3%)、「パート・アルバイトとして働きたい」(18.3%)と続いています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 正規職員として働きたい	59 33.3	27 31.0	18 36.0
2. パート・アルバイトとして働きたい	45 25.4	4 4.6	7 14.0
3. 自営業をしたい (家族でやっている仕事を手伝いたい、を含む)	9 5.1	- -	3 6.0
4. 自分の家で仕事をしたい	13 7.3	- -	1 2.0
5. 障がい者施設・作業所などで働きたい	11 6.2	42 48.3	9 18.0
6. 仕事をするための訓練を受けたい	3 1.7	4 4.6	6 12.0
7. その他	37 20.9	10 11.5	6 12.0
全体	177 100.0	87 100.0	50 100.0

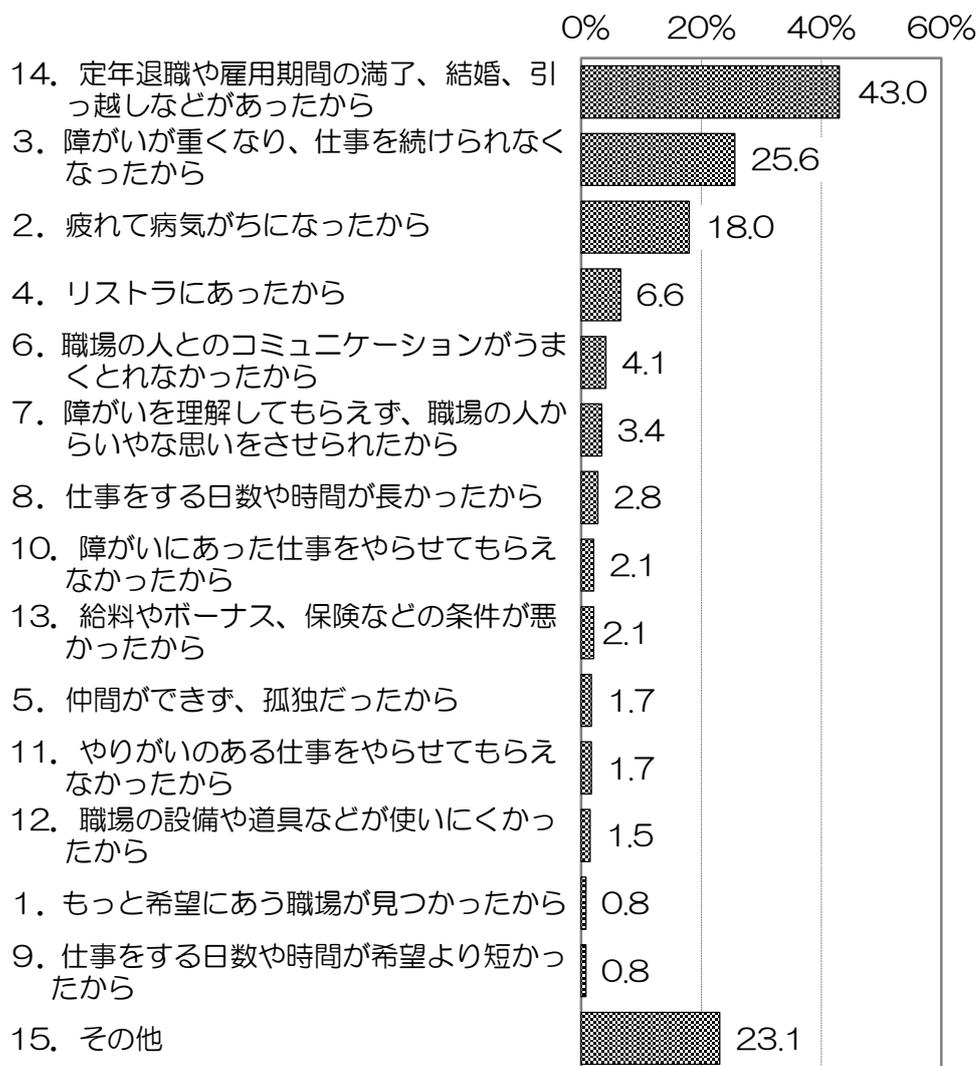
障がい種別にみると、『身体障がい』、『精神障がい』では「正規職員として働きたい」(33.3%、36.0%)が、『知的障がい』では「障がい者施設・作業所などで働きたい」(48.3%)が、それぞれ最も高くなっています。

一方、『精神障がい』では「仕事をするための訓練を受けたい」が12.0%と、他に比べて高くなっています。

問 15 で3を選んだ方におうかがいします。

問 15-4 仕事を辞めた理由は何ですか。(あてはまるもの上位5つまで) 【N=532】

仕事を辞めた理由については、「定年退職や雇用期間の満了、結婚、引っ越しなどがあったから」が43.0%で最も高く、次いで、「障がいが重くなり、仕事を続けられなくなったから」(25.6%)、「疲れて病気がちになったから」(18.0%)と続いています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. もっと希望にあう職場が見つかったから	2 0.4	1 5.9	1 1.9
2. 疲れて病気がちになったから	66 14.1	5 29.4	27 50.0
3. 障がいが重くなり、仕事を続けられなくなったから	116 24.8	5 29.4	21 38.9
4. リストラにあったから	29 6.2	- -	7 13.0
5. 仲間ができず、孤独だったから	3 0.6	- -	6 11.1
6. 職場の人とのコミュニケーションがうまくとれなかったから	9 1.9	2 11.8	11 20.4
7. 障がいを理解してもらえず、職場の人からいやな思いをさせられたから	11 2.4	- -	7 13.0
8. 仕事をする日数や時間が長かったから	10 2.1	- -	5 9.3
9. 仕事をする日数や時間が希望より短かったから	4 0.9	- -	- -
10. 障がいにあった仕事をやらせてもらえなかったから	8 1.7	1 5.9	3 5.6
11. やりがいのある仕事をやらせてもらえなかったから	6 1.3	- -	3 5.6
12. 職場の設備や道具などが使いにくかったから	6 1.3	- -	2 3.7
13. 給料やボーナス、保険などの条件が悪かったから	6 1.3	1 5.9	5 9.3
14. 定年退職や雇用期間の満了、結婚、引っ越しなどがあったから	216 46.2	3 17.6	9 16.7
15. その他	111 23.7	5 29.4	8 14.8
全体	468 100.0	17 100.0	54 100.0

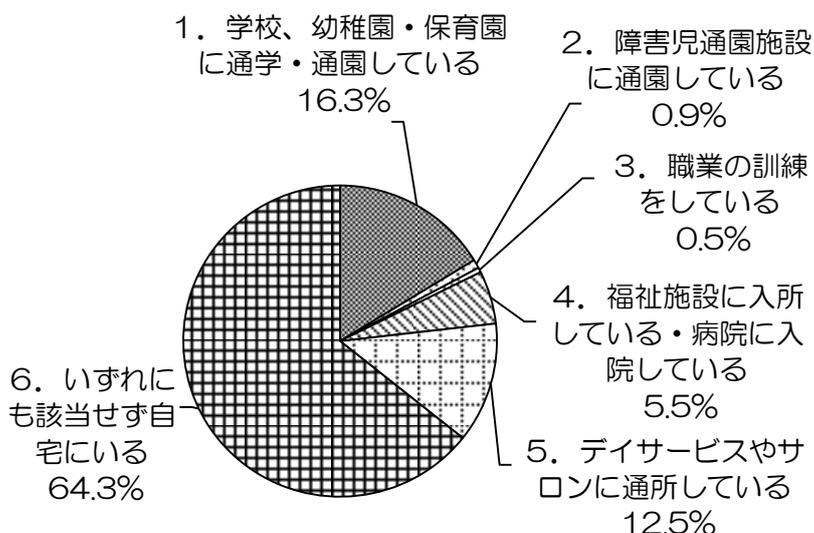
障がい種別にみると、『身体障がい』では「定年退職や雇用期間の満了、結婚、引っ越しなどがあったから」(46.2%)が、『精神障がい』では「疲れて病気がちになったから」(50.0%)が、それぞれ最も高くなっています。

一方、『知的障がい』では「疲れて病気がちになったから」、「障がいが重くなり、仕事を続けられなくなったから」、「その他」が同率(29.4%)で高くなっています。

問 15 で 3、4 を選んだ方におうかがいします。

問 15-5 あなたは現在何をしていますか。(あてはまるもの1つ)【N=762】

現在については、「いずれも該当せず自宅にいる」が64.3%を占め、次いで、「学校、幼稚園・保育園に通学・通園している」が16.3%、「デイサービスやサロンに通所している」が12.5%と続いています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 学校、幼稚園・保育園に通学・通園している	32 5.4	81 73.0	3 4.3
2. 障害児通園施設に通園している	5 0.9	4 3.6	- -
3. 職業の訓練をしている	- -	2 1.8	1 1.4
4. 福祉施設に入所している・病院に入院している	35 6.0	1 0.9	6 8.7
5. デイサービスやサロンに通所している	88 15.0	5 4.5	4 5.8
6. いずれにも該当せず自宅にいる	428 72.8	18 16.2	55 79.7
全体	588 100.0	111 100.0	69 100.0

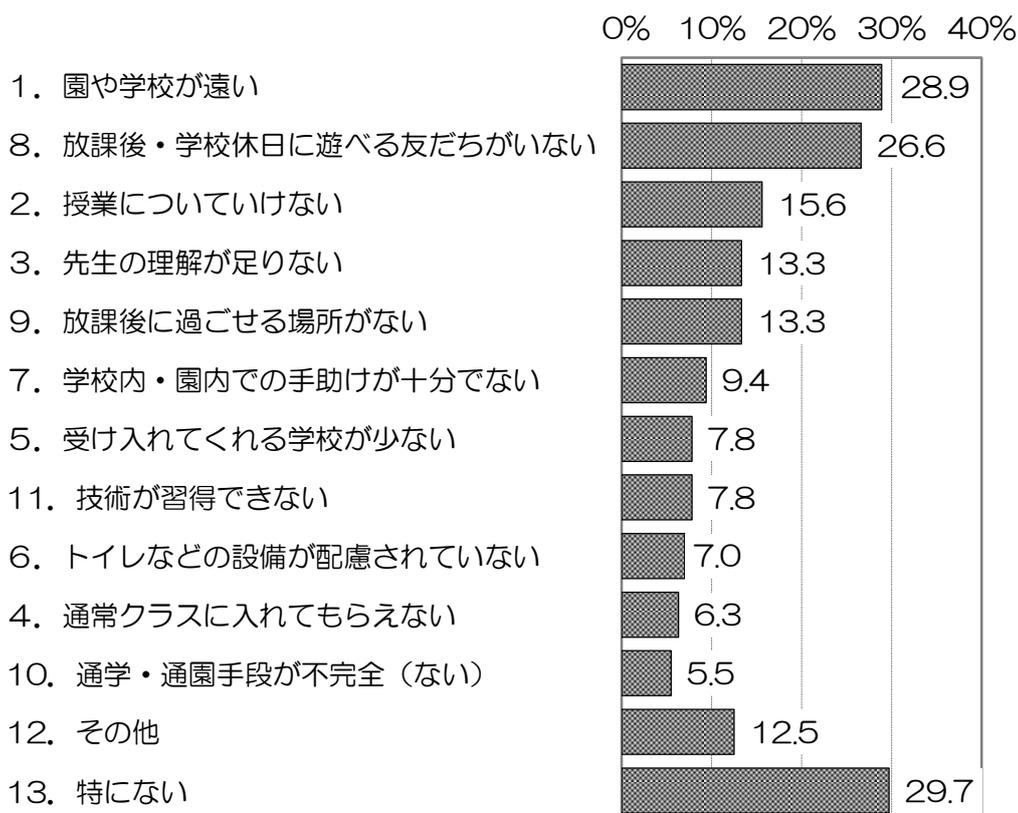
障がい種別にみると、『身体障がい』、『精神障がい』では「いずれにも該当せず自宅にいる」(72.8%、79.7%)が、『知的障がい』では「学校、幼稚園・保育園に通学・通園している」(73.0%)が、それぞれ最も高くなっています。

問 15-5で1～3を選んだ方におうかがいします。

問 15-5-1 困っていること、および将来不安に思っていることは何かありますか。(あてはまるものすべて)【N=128】

困っていること、および将来不安に思っていることとしては、「園や学校が遠い」が28.9%と最も高く、次いで、「放課後・学校休日に遊べる友だちがいない」(26.6%)、「授業についていけない」(15.6%)と続いています。

一方、「特にない」は29.7%となっています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 園や学校が遠い	10 28.6	32 38.6	- -
2. 授業についていけない	2 5.7	9 10.8	1 25.0
3. 先生の理解が足りない	5 14.3	13 15.7	1 25.0
4. 通常クラスに入れてもらえない	1 2.9	2 2.4	- -
5. 受け入れてくれる学校が少ない	2 5.7	5 6.0	2 50.0
6. トイレなどの設備が配慮されていない	4 11.4	6 7.2	- -
7. 学校内・園内での手助けが十分でない	4 11.4	6 7.2	1 25.0
8. 放課後・学校休日に遊べる友だちがいない	8 22.9	25 30.1	1 25.0
9. 放課後に過ごせる場所がない	3 8.6	13 15.7	1 25.0
10. 通学・通園手段が不完全（ない）	4 11.4	5 6.0	- -
11. 技術が習得できない	1 2.9	7 8.4	1 25.0
12. その他	6 17.1	12 14.5	- -
13. 特にない	13 37.1	20 24.1	1 25.0
全体	35 100.0	83 100.0	4 100.0

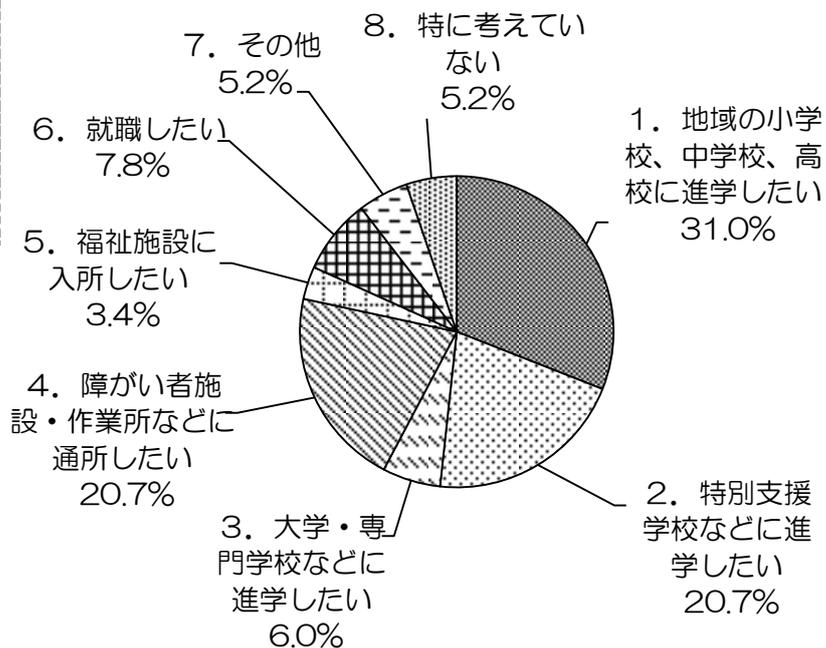
障がい種別にみると、困っていること、および将来不安に思っていることとしては、『身体障がい』、『知的障がい』では「学校や園が遠い」(28.6%、38.6%)が、『精神障がい』では「受け入れてくれる学校が少ない」(50.0%)が、それぞれ最も高くなっています。

一方、『身体障がい』では「特にない」が37.1%と高くなっています。

問 15-5 で 1～3 を選んだ方におうかがいします。

問 15-5-2 卒園・卒業後のことについて何かお考えですか。(あてはまるもの1つ) 【N=116】

卒園・卒業後のことについては、「地域の小学校、中学校、高校に進学したい」が31.0%で最も高く、次いで、「特別支援学校などに進学したい」、「障がい者施設・作業所などに通所したい」が同率(20.7%)で続いています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 地域の小学校、中学校、高校に進学したい	10 33.3	12 15.6	1 33.3
2. 特別支援学校などに進学したい	9 30.0	20 26.0	-
3. 大学・専門学校などに進学したい	1 3.3	3 3.9	-
4. 障がい者施設・作業所などに通所したい	6 20.0	23 29.9	1 33.3
5. 福祉施設に入所したい	1 3.3	4 5.2	-
6. 就職したい	1 3.3	6 7.8	1 33.3
7. その他	1 3.3	5 6.5	-
8. 特に考えていない	1 3.3	4 5.2	-
全体	30 100.0	77 100.0	3 100.0

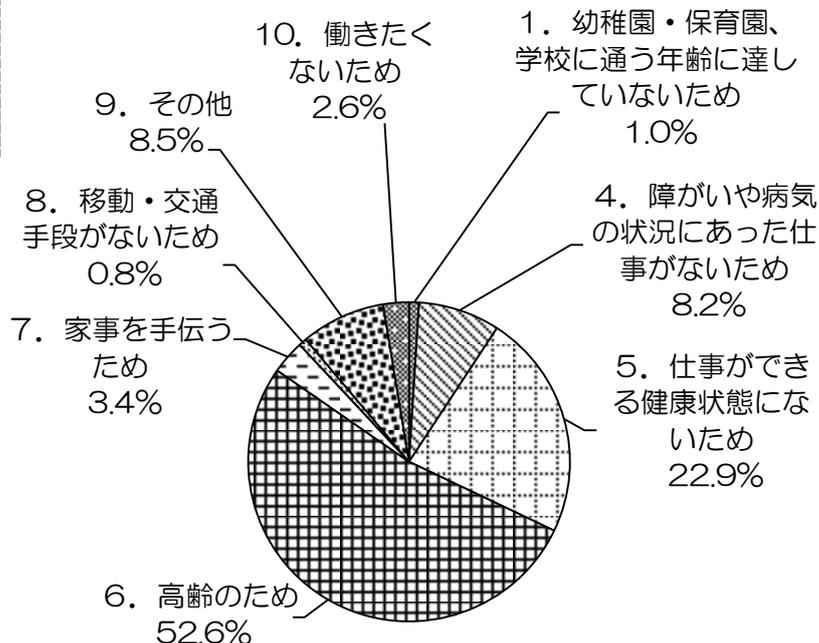
障がい種別にみると、『身体障がい』では「地域の小学校、中学校、高校に進学したい」(33.3%)が、『知的障がい』では「障がい者施設・作業所などに通所したい」(29.9%)が、それぞれ最も高くなっています。

一方、『精神障がい』では「地域の小学校、中学校、高校に進学したい」、「障がい者施設・作業所などに通所したい」、「就職したい」が1人ずつと、回答が分散しています。

問 15-5 で「6. いずれにも該当せず自宅にいる」を選んだ方におうかがいします。

問 15-5-3 自宅にいる主な理由は何ですか。(あてはまるもの1つ) 【N=388】

自宅にいる主な理由については、「高齢のため」が過半数(52.6%)を占め、「仕事ができる健康状態にないため」が22.9%で続いています。



障がい種別クロス

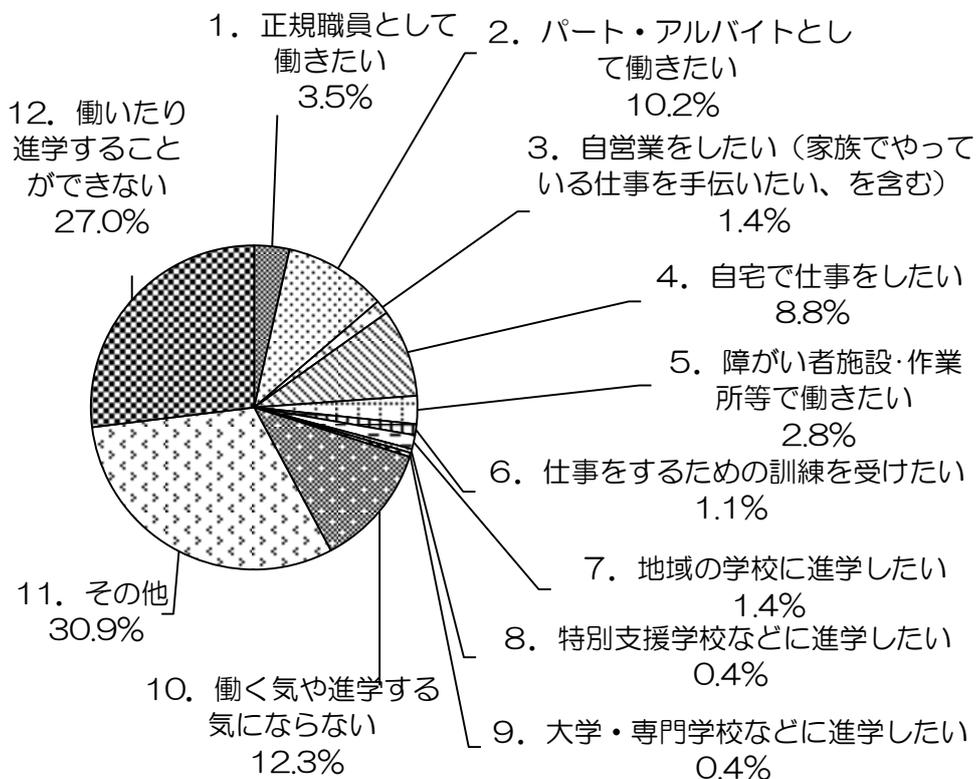
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 幼稚園・保育園、学校に通う年齢に達していないため	1 0.3	2 15.4	- -
2. 幼稚園・保育園、学校に通う健康状態にないため	- -	- -	- -
3. 入所・通所できる施設がないため	- -	- -	- -
4. 障がいや病気の状況にあった仕事がないため	22 6.4	5 38.5	7 17.1
5. 仕事ができる健康状態にないため	70 20.3	3 23.1	20 48.8
6. 高齢のため	200 58.1	- -	5 12.2
7. 家事を手伝うため	12 3.5	- -	1 2.4
8. 移動・交通手段がないため	2 0.6	- -	1 2.4
9. その他	30 8.7	3 23.1	4 9.8
10. 働きたくないため	7 2.0	- -	3 7.3
全体	344 100.0	13 100.0	41 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』では「高齢のため」(58.1%)が、『知的障がい』では「障がいや病気の状況にあった仕事がないため」(38.5%)が、『精神障がい』では「仕事ができる健康状態にないため」(48.8%)が、それぞれ最も高くなっています。

問 15-5で「6. いずれにも該当せず自宅にいる」を選んだ方におうかがいします。

問 15-5-4今後の就労や就学についてどのようにお考えですか。(あてはまるもの1つ)【N=285】

今後の就労や就学については、「その他」が30.9%、「働いたり進学することができない」が27.0%、「働く気や進学する気にならない」が12.3%となっています。



障がい種別クロス

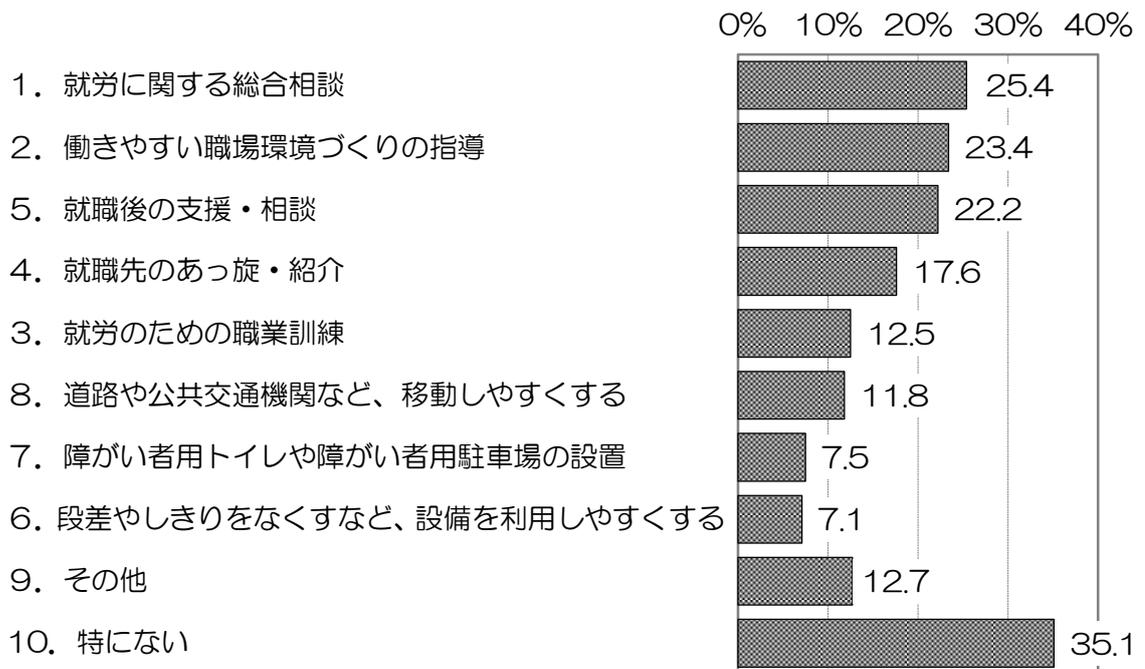
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 正規職員として働きたい	2 0.8	2 13.3	6 15.8
2. パート・アルバイトとして働きたい	23 9.6	- -	5 13.2
3. 自営業をしたい(家族でやっている仕事を手伝いたい、を含む)	4 1.7	- -	- -
4. 自宅で仕事をしたい	19 7.9	2 13.3	5 13.2
5. 障がい者施設・作業所等で働きたい	5 2.1	2 13.3	2 5.3
6. 仕事をするための訓練を受けたい	2 0.8	1 6.7	- -
7. 地域の学校に進学したい	2 0.8	1 6.7	- -
8. 特別支援学校などに進学したい	- -	1 6.7	- -
9. 大学・専門学校などに進学したい	1 0.4	- -	1 2.6
10. 働く気や進学する気にならない	28 11.7	- -	7 18.4
11. その他	85 35.6	5 33.3	4 10.5
12. 働いたり進学することができない	68 28.5	1 6.7	8 21.1
全体	239 100.0	15 100.0	38 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』、『知的障がい』では「その他」(35.6%、33.3%)が、『精神障がい』では「働いたり進学することができない」(21.1%)が、それぞれ最も高くなっています。一方、『知的障がい』では「障がい者施設・作業所等で働きたい」が13.3%と他に比べて高くなっています。

問 16 あなたが就労をしたり働き続けるためには、どのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるもの上位3つまで)【N=934】

就労をしたり働き続けるために必要な支援としては、「就労に関する総合相談」が25.4%と最も高く、次いで、「働きやすい職場環境づくりの指導」(23.4%)、「就職後の支援・相談」(22.2%)と続いています。

一方、「特にない」は35.1%と高くなっています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 就労に関する総合相談	108 17.3	82 41.0	42 35.0
2. 働きやすい職場環境づくりの指導	96 15.4	84 42.0	41 34.2
3. 就労のための職業訓練	38 6.1	51 25.5	19 15.8
4. 就職先のあっ旋・紹介	73 11.7	53 26.5	29 24.2
5. 就職後の支援・相談	69 11.0	89 44.5	49 40.8
6. 段差やしきりをなくすなど、設備を利用しやすくする	59 9.4	7 3.5	3 2.5
7. 障がい者用トイレや障がい者用駐車場の設置	63 10.1	8 4.0	2 1.7
8. 道路や公共交通機関など、移動しやすくする	79 12.6	20 10.0	18 15.0
9. その他	88 14.1	22 11.0	17 14.2
10. 特にない	282 45.1	27 13.5	22 18.3
全体	625 100.0	200 100.0	120 100.0

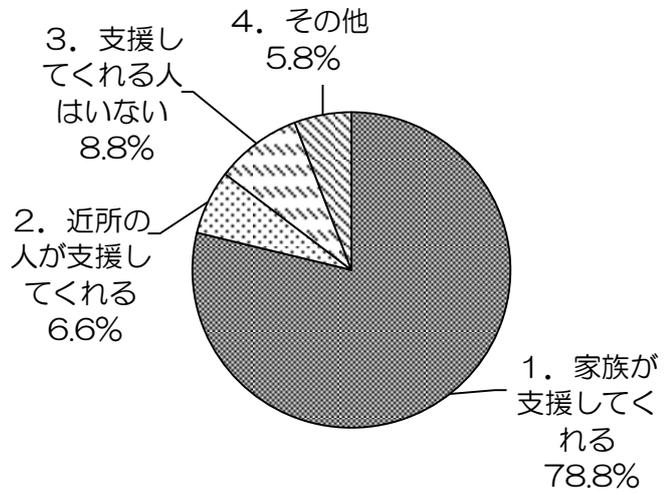
障がい種別にみると、就労をしたり働き続けるために必要な支援としては、『身体障がい』では「就労に関する総合相談」(17.3%)が、『知的障がい』、『精神障がい』では「就職後の支援・相談」(44.5%、40.8%)が、それぞれ最も高くなっています。

一方、『身体障がい』では「特にない」が45.1%と最も高くなっています。

災害時のことについておうかがいします。

問 17 火事や地震などの災害が起きた場合に、家族や近所の人などあなたを支援してくれる人はいますか。(あてはまるもの1つ) 【N=1,360】

災害が起きた場合に支援してくれる人がいるかどうかについては、「家族が支援してくれる」が約8割(78.8%)を占めています。
一方、「支援してくれる人はいない」は8.8%となっています。



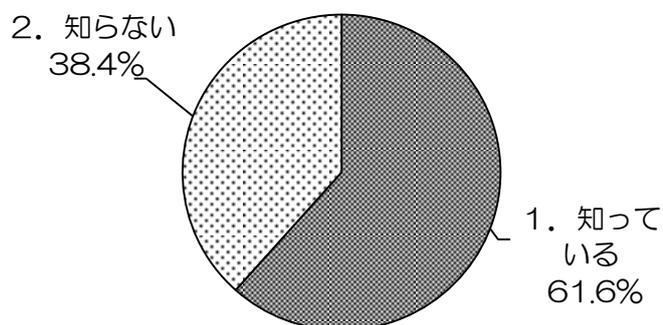
障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 家族が支援してくれる	772 77.8	209 86.4	97 67.4
2. 近所の人支援してくれる	75 7.6	9 3.7	10 6.9
3. 支援してくれる人はいない	84 8.5	18 7.4	23 16.0
4. その他	61 6.1	6 2.5	14 9.7
全体	992 100.0	242 100.0	144 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも「家族が支援してくれる」(77.8%、86.4%、67.4%)が最も高くなっています。
一方、『精神障がい』では「支援してくれる人はいない」が16.0%と、他に比べて高くなっています。

問 18 あなたは、一次避難所を知っていますか。(あてはまるもの1つ) 【N=1,387】

一時避難所を「知っている」は61.6%、「知らない」は38.4%と、「知っている」が上回っています。



障がい種別クロス

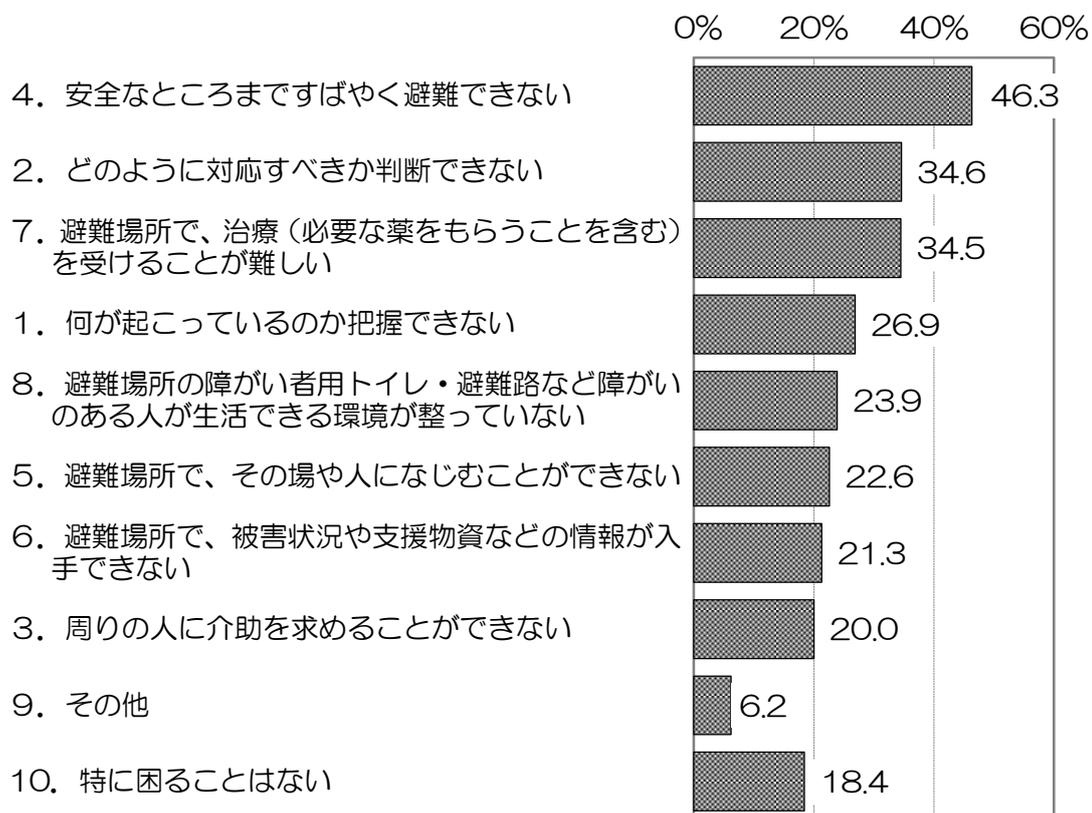
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 知っている	691 67.7	113 45.7	66 44.9
2. 知らない	330 32.3	134 54.3	81 55.1
全体	1021 100.0	247 100.0	147 100.0

障がい種別にみると、『知的障がい』、『精神障がい』では「知らない」(54.3%、55.1%)が過半数を占めています。

一方、『身体障がい』では全体結果と同様に「知っている」(67.7%)が上回っています。

問 19 火事や地震などの災害が発生したときに、あなたはどのようなことが困ると思いますか。
 (あてはまるものすべて) 【N=1,368】

災害が発生したときに困ることについては、「安全なところまですばやく避難できない」が 46.3%と最も高く、次いで、「どのように対応すべきか判断できない」(34.6%)、「避難場所で、治療(必要な薬をもらうことを含む)を受けることが難しい」(34.5%)と続いています。
 一方、「特に困ることはない」は 18.4%となっています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 何が起きているのか把握できない	217 21.7	137 54.6	34 23.6
2. どのように対応すべきか判断できない	235 23.5	178 70.9	69 47.9
3. 周りの人に介助を求めることができない	151 15.1	110 43.8	30 20.8
4. 安全なところまですばやく避難できない	488 48.9	136 54.2	38 26.4
5. 避難場所で、その場や人になじむことができない	131 13.1	123 49.0	67 46.5
6. 避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない	152 15.2	128 51.0	33 22.9
7. 避難場所で、治療（必要な薬をもらうことを含む）を受けることが難しい	328 32.9	100 39.8	66 45.8
8. 避難場所の障がい者用トイレ・避難路など障がいのある人が生活できる環境が整っていない	276 27.7	64 25.5	12 8.3
9. その他	72 7.2	11 4.4	9 6.3
10. 特に困ることはない	214 21.4	26 10.4	16 11.1
全体	998 100.0	251 100.0	144 100.0

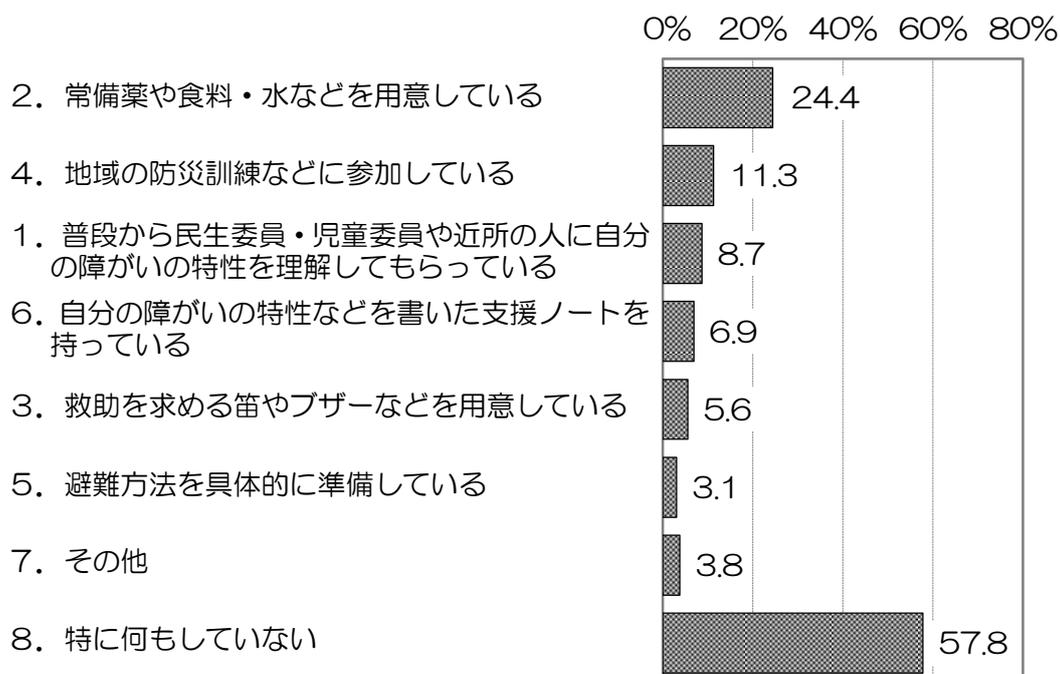
障がい種別にみると、『身体障がい』では「安全なところまですばやく避難できない」(48.9%)が、『知的障がい』、『精神障がい』では「どのように対応すべきか判断できない」(70.9%、47.9%)が、それぞれ最も高くなっています。

一方、『知的障がい』では「何が起きているのか把握できない」(54.6%)、「周りの人に介助を求めることができない」(43.8%)、「避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない」(51.0%)などが他に比べて高くなっています。

問 20 あなたは、火事や地震などの災害に備えてしていることはありますか。(あてはまるものすべて)【N=1,371】

災害に備えてしていることとしては、「常備薬や食料・水などを用意している」が24.4%と最も高く、次いで、「地域の防災訓練などに参加している」(11.3%)、「普段から民生委員・児童委員や近所の人に自分の障がいの特性を理解してもらっている」(8.7%)と続いています。

一方、「特に何もしていない」は57.8%と高くなっています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 普段から民生委員・児童委員や近所の人に自分の障がいの特性を理解してもらっている	89 8.9	31 12.4	11 7.5
2. 常備薬や食料・水などを用意している	267 26.6	49 19.7	31 21.2
3. 救助を求める笛やブザーなどを用意している	69 6.9	9 3.6	6 4.1
4. 地域の防災訓練などに参加している	135 13.4	10 4.0	10 6.8
5. 避難方法を具体的に準備している	35 3.5	2 0.8	3 2.1
6. 自分の障がいの特性などを書いた支援ノートを持っている	73 7.3	17 6.8	9 6.2
7. その他	39 3.9	8 3.2	9 6.2
8. 特に何もしていない	542 54.0	160 64.3	90 61.6
全体	1004 100.0	249 100.0	146 100.0

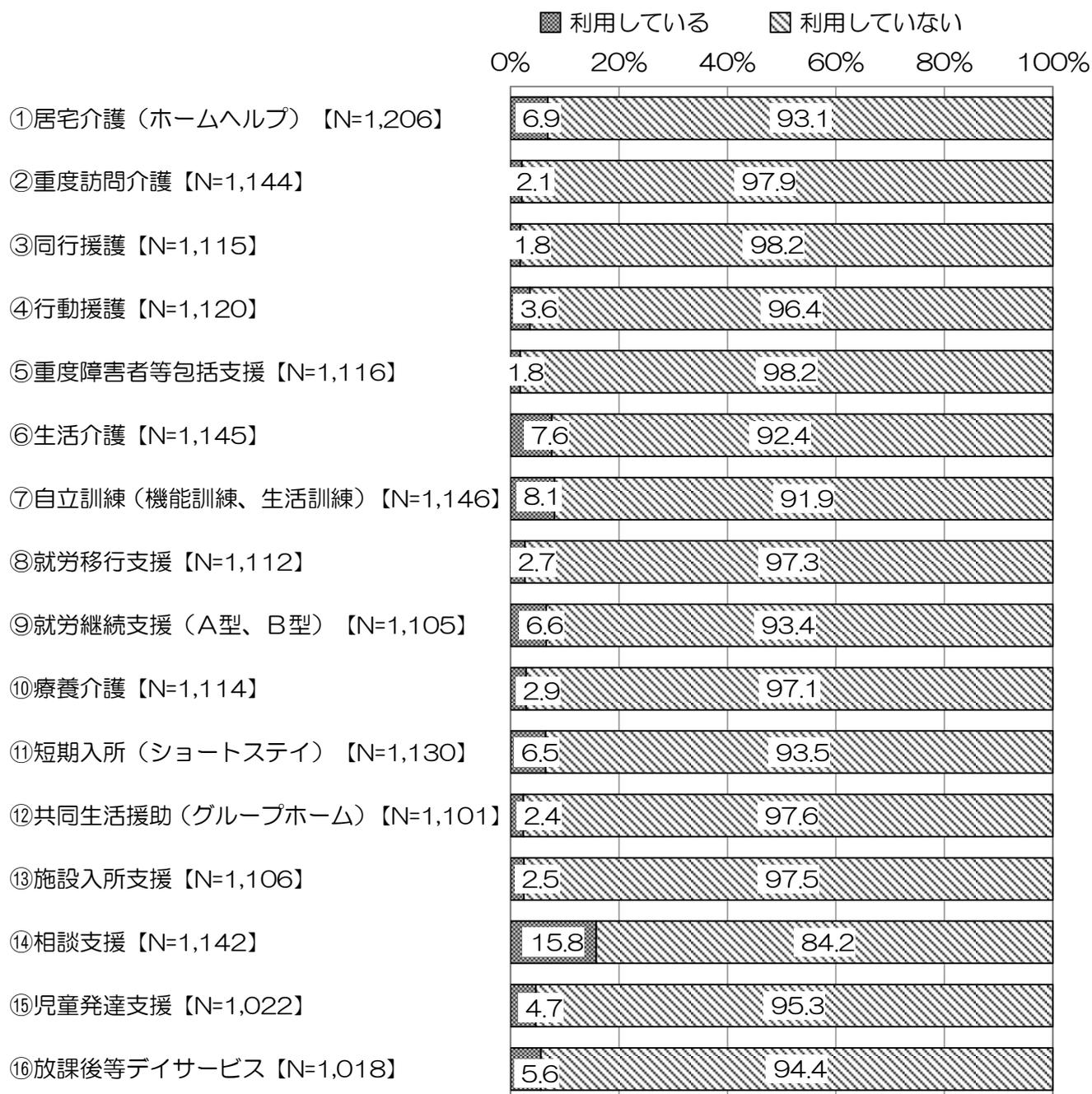
障がい種別にみると、災害に備えてしていることとしては、いずれの障がい種別でも全体結果と同様に「常備薬や食料・水などを用意している」(26.6%、19.7%、21.2%)がそれぞれ最も高くなっています。

一方、いずれの障がい種別でも「特に何もしていない」(54.0%、64.3%、61.6%)が高くなっています。

障がい福祉サービスについておうかがいします。

問 21 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いますか。(①から⑯のそれぞれについて、「現在利用しているか」と「今後利用したいか」の両方を回答(番号に○)してください)

現在利用しているサービスについては、「相談支援」が15.8%と最も高く、次いで、「自立訓練(機能訓練、生活訓練)」(8.1%)、「生活介護」(7.6%)と続いています。



障がい種別クロス

【身体障がい】

サービスの項目	利用している		利用していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
①居宅介護（ホームヘルプ）	61	7.0	808	93.0	869	100.0
②重度訪問介護	19	2.3	795	97.7	814	100.0
③同行援護	13	1.6	781	98.4	794	100.0
④行動援護	11	1.4	774	98.6	785	100.0
⑤重度障害者等包括支援	15	1.9	778	98.1	793	100.0
⑥生活介護	70	8.5	749	91.5	819	100.0
⑦自立訓練（機能訓練、生活訓練）	76	9.3	743	90.7	819	100.0
⑧就労移行支援	5	0.6	780	99.4	785	100.0
⑨就労継続支援（A型、B型）	14	1.8	765	98.2	779	100.0
⑩療養介護	24	3.0	767	97.0	791	100.0
⑪短期入所（ショートステイ）	52	6.5	749	93.5	801	100.0
⑫共同生活援助（グループホーム）	12	1.6	760	98.4	772	100.0
⑬施設入所支援	22	2.8	759	97.2	781	100.0
⑭相談支援	95	11.7	715	88.3	810	100.0
⑮児童発達支援	12	1.7	695	98.3	707	100.0
⑯放課後等デイサービス	14	2.0	693	98.0	707	100.0

利用しているサービスを障がい種別にみると、『身体障がい』では、全体結果と同様に「相談支援」が11.7%と最も高く、次いで、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」（9.3%）、「生活介護」（8.5%）と続いています。

【知的障がい】

サービスの項目	利用している		利用していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
①居宅介護（ホームヘルプ）	24	10.5	204	89.5	228	100.0
②重度訪問介護	4	1.8	219	98.2	223	100.0
③同行援護	5	2.3	210	97.7	215	100.0
④行動援護	30	13.2	197	86.8	227	100.0
⑤重度障害者等包括支援	6	2.8	211	97.2	217	100.0
⑥生活介護	25	11.0	202	89.0	227	100.0
⑦自立訓練（機能訓練、生活訓練）	16	7.3	204	92.7	220	100.0
⑧就労移行支援	14	6.4	205	93.6	219	100.0
⑨就労継続支援（A型、B型）	37	17.0	181	83.0	218	100.0
⑩療養介護	7	3.2	210	96.8	217	100.0
⑪短期入所（ショートステイ）	33	14.7	192	85.3	225	100.0
⑫共同生活援助（グループホーム）	12	5.4	209	94.6	221	100.0
⑬施設入所支援	7	3.2	212	96.8	219	100.0
⑭相談支援	67	30.2	155	69.8	222	100.0
⑮児童発達支援	20	9.6	188	90.4	208	100.0
⑯放課後等デイサービス	50	24.3	156	75.7	206	100.0

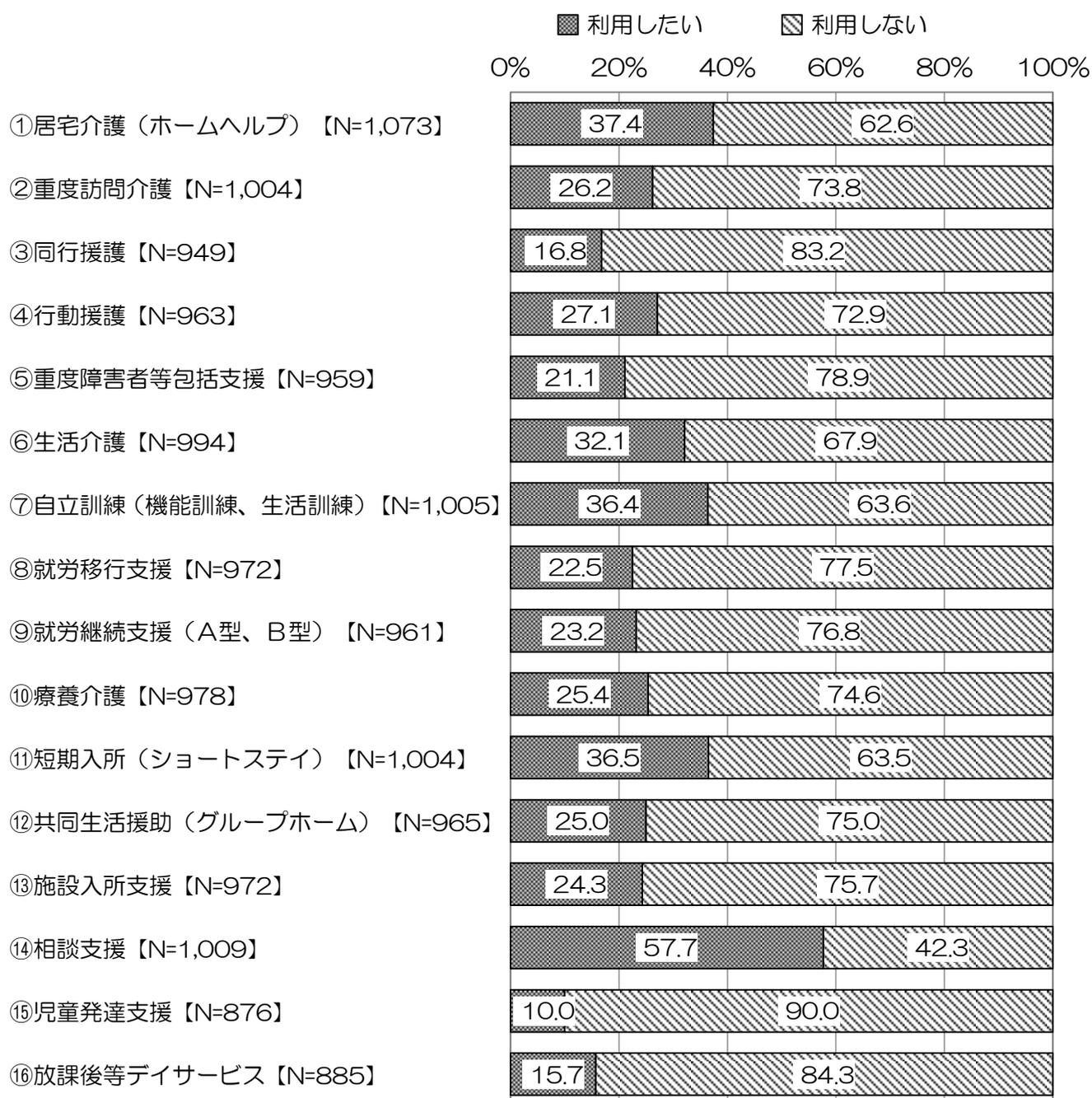
『知的障がい』では、「相談支援」が30.2%と最も高く、次いで、「放課後等デイサービス」（24.3%）、「就労継続支援（A型、B型）」（17.0%）と続いています。

【精神障がい】

サービスの項目	利用している		利用していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
①居宅介護（ホームヘルプ）	12	9.8	111	90.2	123	100.0
②重度訪問介護	4	3.3	117	96.7	121	100.0
③同行援護	4	3.4	115	96.6	119	100.0
④行動援護	8	6.6	114	93.4	122	100.0
⑤重度障害者等包括支援	3	2.5	116	97.5	119	100.0
⑥生活介護	7	5.8	113	94.2	120	100.0
⑦自立訓練（機能訓練、生活訓練）	8	6.6	113	93.4	121	100.0
⑧就労移行支援	12	9.9	109	90.1	121	100.0
⑨就労継続支援（A型、B型）	25	21.0	94	79.0	119	100.0
⑩療養介護	5	4.2	115	95.8	120	100.0
⑪短期入所（ショートステイ）	4	3.3	116	96.7	120	100.0
⑫共同生活援助（グループホーム）	5	4.2	114	95.8	119	100.0
⑬施設入所支援	1	0.8	117	99.2	118	100.0
⑭相談支援	34	27.0	92	73.0	126	100.0
⑮児童発達支援	2	1.8	112	98.2	114	100.0
⑯放課後等デイサービス	2	1.8	111	98.2	113	100.0

『精神障がい』では、「相談支援」が27.0%と最も高く、次いで、「就労継続支援(A型、B型)」(21.0%)、「就労移行支援」(9.9%)と続いています。

今後利用したいサービスについては、「相談支援」が57.7%と最も高く、次いで、「居宅介護(ホームヘルプ)」(37.4%)、「短期入所(ショートステイ)」(36.5%)、「自立訓練(機能訓練、生活訓練)」(36.4%)と続いています。



障がい種別クロス

【身体障がい】

サービスの項目	利用したい		利用しない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
①居宅介護（ホームヘルプ）	328	42.9	436	57.1	764	100.0
②重度訪問介護	231	32.8	474	67.2	705	100.0
③同行援護	137	20.8	522	79.2	659	100.0
④行動援護	140	21.4	514	78.6	654	100.0
⑤重度障害者等包括支援	172	25.9	492	74.1	664	100.0
⑥生活介護	263	37.9	431	62.1	694	100.0
⑦自立訓練（機能訓練、生活訓練）	253	36.2	445	63.8	698	100.0
⑧就労移行支援	88	13.1	583	86.9	671	100.0
⑨就労継続支援（A型、B型）	86	13.0	576	87.0	662	100.0
⑩療養介護	210	30.7	475	69.3	685	100.0
⑪短期入所（ショートステイ）	274	39.3	424	60.7	698	100.0
⑫共同生活援助（グループホーム）	142	21.5	519	78.5	661	100.0
⑬施設入所支援	179	26.7	492	73.3	671	100.0
⑭相談支援	385	54.4	323	45.6	708	100.0
⑮児童発達支援	44	7.4	548	92.6	592	100.0
⑯放課後等デイサービス	64	10.7	534	89.3	598	100.0

今後利用したいサービスを障がい種別にみると、『身体障がい』では、全体結果と同様に「相談支援」が54.4%と最も高く、次いで、「居宅介護（ホームヘルプ）」（42.9%）、「短期入所（ショートステイ）」（39.3%）と続いています。

【知的障がい】

サービスの項目	利用したい		利用しない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
①居宅介護（ホームヘルプ）	68	32.4	142	67.6	210	100.0
②重度訪問介護	39	19.2	164	80.8	203	100.0
③同行援護	13	6.9	176	93.1	189	100.0
④行動援護	99	47.8	108	52.2	207	100.0
⑤重度障害者等包括支援	31	15.8	165	84.2	196	100.0
⑥生活介護	55	27.2	147	72.8	202	100.0
⑦自立訓練（機能訓練、生活訓練）	85	41.1	122	58.9	207	100.0
⑧就労移行支援	91	44.6	113	55.4	204	100.0
⑨就労継続支援（A型、B型）	100	49.5	102	50.5	202	100.0
⑩療養介護	30	15.3	166	84.7	196	100.0
⑪短期入所（ショートステイ）	99	47.8	108	52.2	207	100.0
⑫共同生活援助（グループホーム）	91	44.4	114	55.6	205	100.0
⑬施設入所支援	68	33.3	136	66.7	204	100.0
⑭相談支援	155	74.5	53	25.5	208	100.0
⑮児童発達支援	28	15.4	154	84.6	182	100.0
⑯放課後等デイサービス	73	38.4	117	61.6	190	100.0

『知的障がい』では、「相談支援」が74.5%と最も高く、次いで、「就労継続支援（A型、B型）」（49.5%）、「行動援護」（47.8%）と続いています。

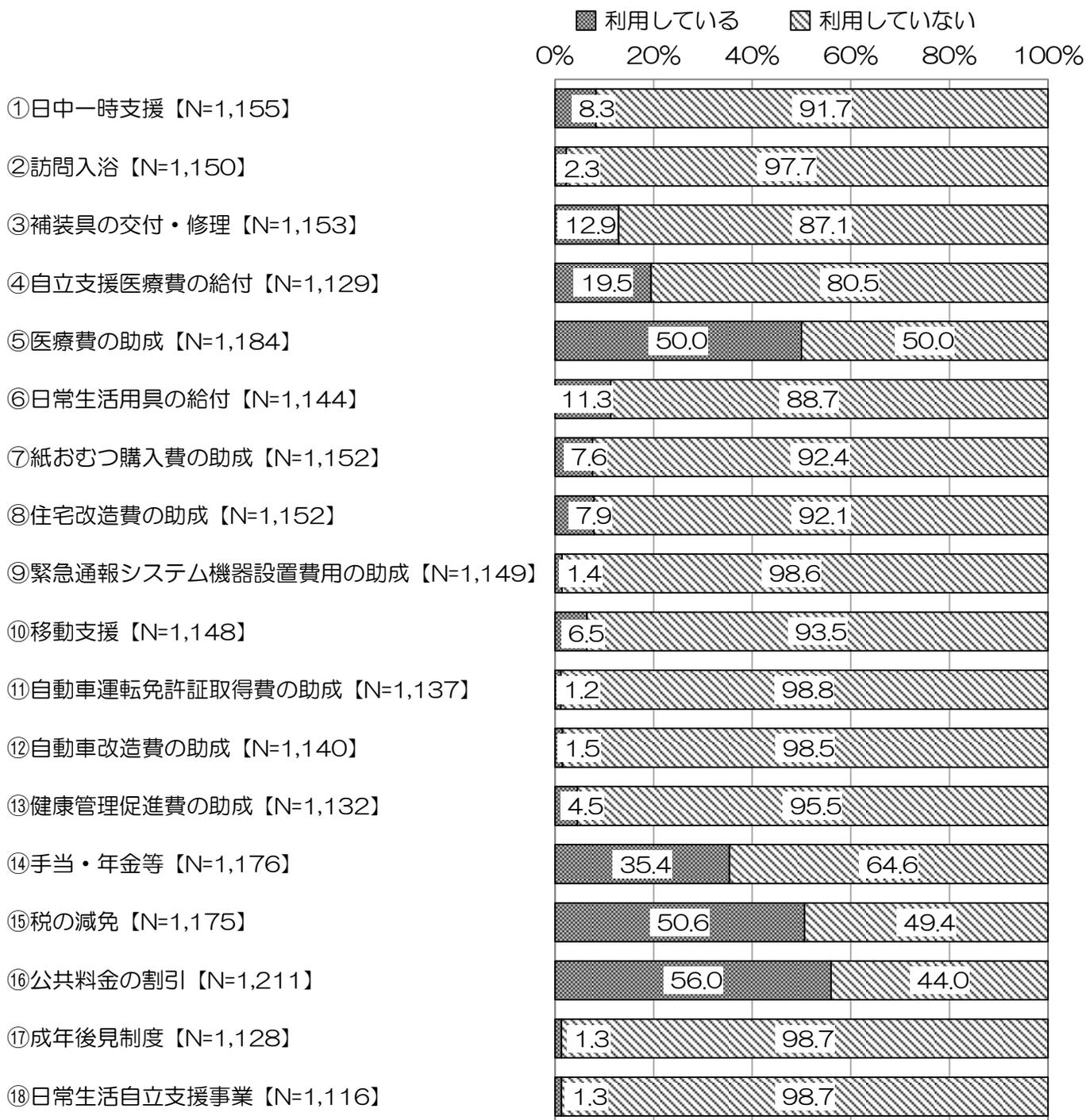
【精神障がい】

サービスの項目	利用したい		利用しない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
①居宅介護（ホームヘルプ）	32	28.1	82	71.9	114	100.0
②重度訪問介護	13	11.6	99	88.4	112	100.0
③同行援護	11	10.0	99	90.0	110	100.0
④行動援護	36	31.0	80	69.0	116	100.0
⑤重度障害者等包括支援	12	10.9	98	89.1	110	100.0
⑥生活介護	18	16.4	92	83.6	110	100.0
⑦自立訓練（機能訓練、生活訓練）	38	33.0	77	67.0	115	100.0
⑧就労移行支援	39	35.5	71	64.5	110	100.0
⑨就労継続支援（A型、B型）	42	38.2	68	61.8	110	100.0
⑩療養介護	19	17.0	93	83.0	112	100.0
⑪短期入所（ショートステイ）	18	15.8	96	84.2	114	100.0
⑫共同生活援助（グループホーム）	20	18.2	90	81.8	110	100.0
⑬施設入所支援	11	10.0	99	90.0	110	100.0
⑭相談支援	71	62.8	42	37.2	113	100.0
⑮児童発達支援	4	3.8	101	96.2	105	100.0
⑯放課後等デイサービス	4	3.8	101	96.2	105	100.0

『精神障がい』では、「相談支援」が62.8%と最も高く、次いで、「就労継続支援(A型、B型)」(38.2%)、「就労移行支援」(35.5%)と続いています。

問 22 あなたは次のサービスを利用していますか。利用している場合は満足していますか。(①から⑱のそれぞれについて「現在利用しているか」に回答(番号に○)するとともに、利用している場合は「満足しているか」に回答(番号に○)してください)

現在利用しているサービスについては、「公共料金の割引」(56.0%)、「税の減免」(50.6%)、「医療費の助成」(50.0%)では5割を超えています。以下、「手当・年金等」(35.4%)、「自立支援医療費の給付」(19.5%)、「補装具の交付・修理」(12.9%)と続いています。



障がい種別クロス

【身体障がい】

サービスの項目	利用している		利用していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
① 日中一時支援	45	5.5	773	94.5	818	100.0
② 訪問入浴	27	3.3	790	96.7	817	100.0
③ 補装具の交付・修理	140	17.1	679	82.9	819	100.0
④ 自立支援医療費の給付	100	12.5	697	87.5	797	100.0
⑤ 医療費の助成	421	49.9	423	50.1	844	100.0
⑥ 日常生活用具の給付	127	15.5	691	84.5	818	100.0
⑦ 紙おむつ購入費の助成	78	9.4	748	90.6	826	100.0
⑧ 住宅改造費の助成	90	10.9	736	89.1	826	100.0
⑨ 緊急通報システム機器設置費用の助成	14	1.7	805	98.3	819	100.0
⑩ 移動支援	37	4.5	780	95.5	817	100.0
⑪ 自動車運転免許証取得費の助成	14	1.7	800	98.3	814	100.0
⑫ 自動車改造費の助成	16	2.0	797	98.0	813	100.0
⑬ 健康管理促進費の助成	50	6.2	756	93.8	806	100.0
⑭ 手当・年金等	229	27.6	600	72.4	829	100.0
⑮ 税の減免	494	58.3	353	41.7	847	100.0
⑯ 公共料金の割引	539	62.1	329	37.9	868	100.0
⑰ 成年後見制度	7	0.9	788	99.1	795	100.0
⑱ 日常生活自立支援事業	6	0.8	777	99.2	783	100.0

現在利用しているサービスを障がい種別にみると、『身体障がい』では、全体結果と同様に「公共料金の割引」が62.1%と最も高く、次いで、「税の減免」(58.3%)、「医療費の助成」(49.9%)と続いています。

【知的障がい】

サービスの項目	利用している		利用していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
① 日中一時支援	62	26.7	170	73.3	232	100.0
② 訪問入浴	5	2.2	221	97.8	226	100.0
③ 補装具の交付・修理	23	10.2	203	89.8	226	100.0
④ 自立支援医療費の給付	32	14.7	186	85.3	218	100.0
⑤ 医療費の助成	115	50.4	113	49.6	228	100.0
⑥ 日常生活用具の給付	23	10.4	198	89.6	221	100.0
⑦ 紙おむつ購入費の助成	30	13.5	193	86.5	223	100.0
⑧ 住宅改造費の助成	10	4.5	211	95.5	221	100.0
⑨ 緊急通報システム機器設置費用の助成	3	1.3	222	98.7	225	100.0
⑩ 移動支援	45	19.8	182	80.2	227	100.0
⑪ 自動車運転免許証取得費の助成	1	0.5	218	99.5	219	100.0
⑫ 自動車改造費の助成	5	2.3	215	97.7	220	100.0
⑬ 健康管理促進費の助成	2	0.9	215	99.1	217	100.0
⑭ 手当・年金等	149	62.6	89	37.4	238	100.0
⑮ 税の減免	95	42.6	128	57.4	223	100.0
⑯ 公共料金の割引	120	50.8	116	49.2	236	100.0
⑰ 成年後見制度	6	2.7	220	97.3	226	100.0
⑱ 日常生活自立支援事業	10	4.4	216	95.6	226	100.0

『知的障がい』では、「手当・年金等」が62.6%と最も高く、次いで、「公共料金の割引」(50.8%)、「医療費の助成」(50.4%)と続いています。

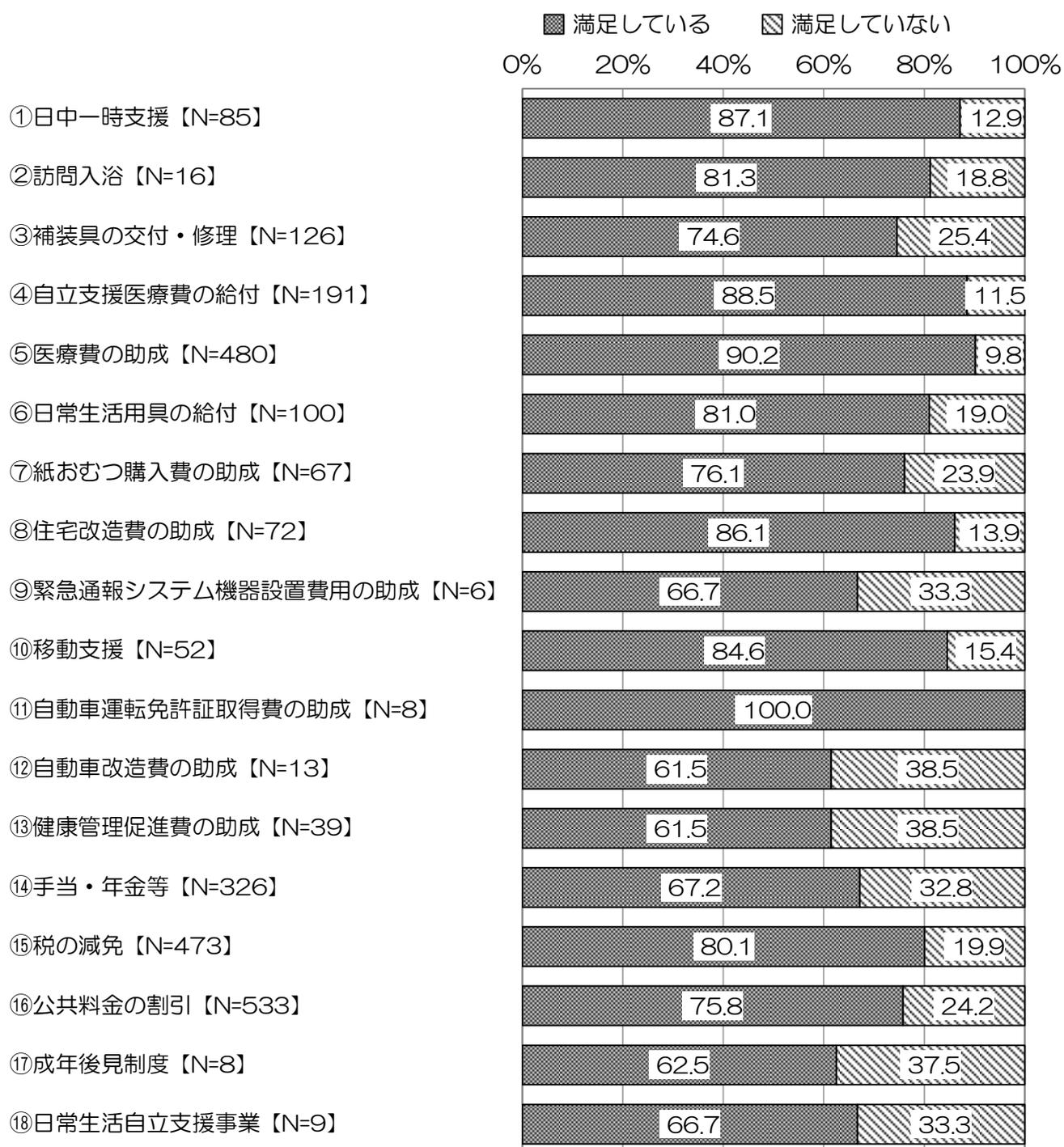
【精神障がい】

サービスの項目	利用している		利用していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
① 日中一時支援	6	4.8	119	95.2	125	100.0
② 訪問入浴	2	1.6	122	98.4	124	100.0
③ 補装具の交付・修理	3	2.4	121	97.6	124	100.0
④ 自立支援医療費の給付	100	75.2	33	24.8	133	100.0
⑤ 医療費の助成	95	72.0	37	28.0	132	100.0
⑥ 日常生活用具の給付	2	1.6	124	98.4	126	100.0
⑦ 紙おむつ購入費の助成	2	1.6	123	98.4	125	100.0
⑧ 住宅改造費の助成	2	1.6	123	98.4	125	100.0
⑨ 緊急通報システム機器設置費用の助成	2	1.6	124	98.4	126	100.0
⑩ 移動支援	6	4.8	120	95.2	126	100.0
⑪ 自動車運転免許証取得費の助成	1	0.8	123	99.2	124	100.0
⑫ 自動車改造費の助成	1	0.8	124	99.2	125	100.0
⑬ 健康管理促進費の助成	1	0.8	124	99.2	125	100.0
⑭ 手当・年金等	73	55.7	58	44.3	131	100.0
⑮ 税の減免	43	34.4	82	65.6	125	100.0
⑯ 公共料金の割引	55	43.3	72	56.7	127	100.0
⑰ 成年後見制度	4	3.3	118	96.7	122	100.0
⑱ 日常生活自立支援事業	5	4.1	117	95.9	122	100.0

『知的障がい』では、「自立支援医療費の給付」が75.2%と最も高く、次いで、「医療費の助成」(72.0%)、「手当・年金等」(55.7%)と続いています。

利用しているサービスの満足度については、「自動車運転免許証取得費の助成」が100%と高く、以下、「医療費の助成」(90.2%)、「自立支援医療費の給付」(88.5%)、「日中一時支援」(87.1%)と続いており、すべてのサービスで満足度は6割以上となっています。

一方、利用度が最も高かった「公共料金の割引」の満足度は75.8%となっています。



障がい種別クロス

【身体障がい】

サービスの項目	満足している		満足していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
① 日中一時支援	32	86.5	5	13.5	37	100.0
② 訪問入浴	13	81.3	3	18.8	16	100.0
③ 補装具の交付・修理	90	74.4	31	25.6	121	100.0
④ 自立支援医療費の給付	73	92.4	6	7.6	79	100.0
⑤ 医療費の助成	312	93.1	23	6.9	335	100.0
⑥ 日常生活用具の給付	80	80.8	19	19.2	99	100.0
⑦ 紙おむつ購入費の助成	48	80.0	12	20.0	60	100.0
⑧ 住宅改造費の助成	61	85.9	10	14.1	71	100.0
⑨ 緊急通報システム機器設置費用の助成	3	60.0	2	40.0	5	100.0
⑩ 移動支援	20	80.0	5	20.0	25	100.0
⑪ 自動車運転免許証取得費の助成	8	100.0	-	-	8	100.0
⑫ 自動車改造費の助成	8	61.5	5	38.5	13	100.0
⑬ 健康管理促進費の助成	24	61.5	15	38.5	39	100.0
⑭ 手当・年金等	120	66.3	61	33.7	181	100.0
⑮ 税の減免	320	82.3	69	17.7	389	100.0
⑯ 公共料金の割引	330	77.6	95	22.4	425	100.0
⑰ 成年後見制度	2	66.7	1	33.3	3	100.0
⑱ 日常生活自立支援事業	2	100.0	-	-	2	100.0

利用しているサービスの満足度を障がい種別にみると、『身体障がい』では、「自動車運転免許証取得費の助成」、「日常生活自立支援事業」が100%と高く、以下、「医療費の助成」(93.1%)、「自立支援医療費の給付」(92.4%)と続いています。

一方、利用度が最も高かった「公共料金の割引」の満足度は77.6%となっています。

【知的障がい】

サービスの項目	満足している		満足していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
① 日中一時支援	53	89.8	6	10.2	59	100.0
② 訪問入浴	4	100.0	-	-	4	100.0
③ 補装具の交付・修理	14	73.7	5	26.3	19	100.0
④ 自立支援医療費の給付	24	85.7	4	14.3	28	100.0
⑤ 医療費の助成	76	80.0	19	20.0	95	100.0
⑥ 日常生活用具の給付	16	84.2	3	15.8	19	100.0
⑦ 紙おむつ購入費の助成	17	70.8	7	29.2	24	100.0
⑧ 住宅改造費の助成	8	88.9	1	11.1	9	100.0
⑨ 緊急通報システム機器設置費用の助成	1	100.0	-	-	1	100.0
⑩ 移動支援	29	87.9	4	12.1	33	100.0
⑪ 自動車運転免許証取得費の助成	-	-	-	-	-	-
⑫ 自動車改造費の助成	2	50.0	2	50.0	4	100.0
⑬ 健康管理促進費の助成	-	-	-	-	-	-
⑭ 手当・年金等	81	70.4	34	29.6	115	100.0
⑮ 税の減免	63	76.8	19	23.2	82	100.0
⑯ 公共料金の割引	72	77.4	21	22.6	93	100.0
⑰ 成年後見制度	2	66.7	1	33.3	3	100.0
⑱ 日常生活自立支援事業	4	57.1	3	42.9	7	100.0

『知的障がい』では、「訪問入浴」、「緊急通報システム機器設置費用の助成」が100%と高く、以下、「日中一時支援」(89.8%)、「住宅改造費の助成」(88.9%)と続いています。
一方、利用度が最も高かった「手当・年金等」の満足度は70.4%となっています。

【精神障がい】

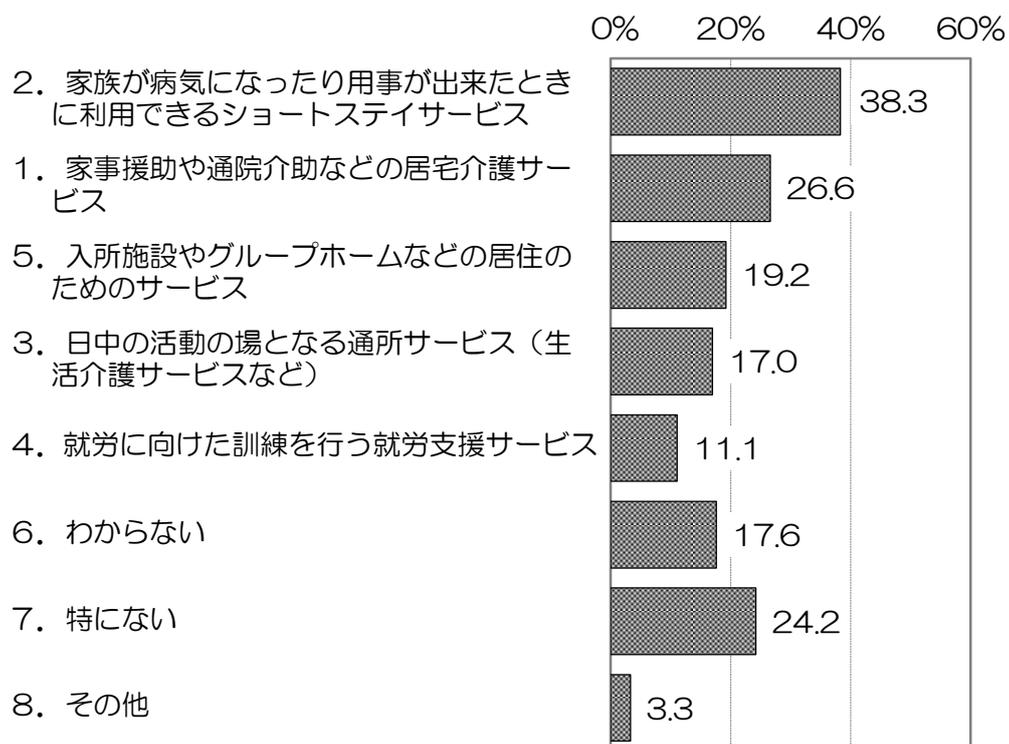
サービスの項目	満足している		満足していない		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
① 日中一時支援	5	83.3	1	16.7	6	100.0
② 訪問入浴	1	100.0	-	-	1	100.0
③ 補装具の交付・修理	1	100.0	-	-	1	100.0
④ 自立支援医療費の給付	79	84.9	14	15.1	93	100.0
⑤ 医療費の助成	68	84.0	13	16.0	81	100.0
⑥ 日常生活用具の給付	2	100.0	-	-	2	100.0
⑦ 紙おむつ購入費の助成	1	100.0	-	-	1	100.0
⑧ 住宅改造費の助成	1	100.0	-	-	1	100.0
⑨ 緊急通報システム機器設置費用の助成	-	-	-	-	-	-
⑩ 移動支援	4	100.0	-	-	4	100.0
⑪ 自動車運転免許証取得費の助成	-	-	-	-	-	-
⑫ 自動車改造費の助成	-	-	-	-	-	-
⑬ 健康管理促進費の助成	-	-	-	-	-	-
⑭ 手当・年金等	36	63.2	21	36.8	57	100.0
⑮ 税の減免	21	65.6	11	34.4	32	100.0
⑯ 公共料金の割引	29	64.4	16	35.6	45	100.0
⑰ 成年後見制度	1	50.0	1	50.0	2	100.0
⑱ 日常生活自立支援事業	4	100.0	-	-	4	100.0

『精神障がい』では、「訪問入浴」、「補装具の交付・修理」、「日常生活用具の給付」、「紙おむつ購入費の助成」、「住宅改造費の助成」、「移動支援」、「日常生活自立支援事業」などが利用者は少ないものの満足度は100%と高くなっています。

一方、利用度が高かった「自立支援医療費の給付」の満足度は89.8%、「医療費の助成」は88.9%、「手当・年金等」は63.2%となっています。

問 23 あなたは、今後どのようなサービスを利用したいと思いますか。(あてはまるものすべて)
【N=1,333】

今後利用したいサービスについては、「家族が病気になったり用事が出来たときに利用できるショートステイサービス」が38.3%と最も高く、次いで、「家事援助や通院介助などの居宅介護サービス」(26.6%)、「入所施設やグループホームなどの居住のためのサービス」(19.2%)と続いています。一方、「特にない」は24.2%となっています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 家事援助や通院介助などの居宅介護サービス	286 29.4	62 25.2	28 20.3
2. 家族が病気になったり用事が出来たときに利用できるショートステイサービス	380 39.1	128 52.0	32 23.2
3. 日中の活動の場となる通所サービス(生活介護サービスなど)	170 17.5	65 26.4	14 10.1
4. 就労に向けた訓練を行う就労支援サービス	34 3.5	76 30.9	34 24.6
5. 入所施設やグループホームなどの居住のためのサービス	165 17.0	90 36.6	18 13.0
6. わからない	160 16.4	35 14.2	36 26.1
7. 特にない	265 27.2	32 13.0	23 16.7
8. その他	33 3.4	8 3.3	8 5.8
全体	973 100.0	246 100.0	138 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』、『知的障がい』では、「家族が病気になったり用事が出来たときに利用できるショートステイサービス」(39.1%、52.0%)が、『精神障がい』では「わからない」(26.1%)が、それぞれ最も高くなっています。次いで、『身体障がい』では「家事援助や通院介助などの居宅介護サービス」(29.4%)が、『知的障がい』では「入所施設やグループホームなどの居住のためのサービス」(36.6%)が、『精神障がい』では「就労に向けた訓練を行う就労支援サービス」(24.6%)が続いています。

一方、『身体障がい』では、「特にない」が27.2%と他に比べて高くなっています。

問 24あなたにとって住みよいまちをつくるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。
 (あてはまるものすべて)【N=1,326】

住みよいまちをつくるために必要なことについては、「なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が55.1%と最も高く、次いで、「サービス利用の手続きの簡素化」(50.5%)、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」(41.9%)と続いています。



障がい種別クロス

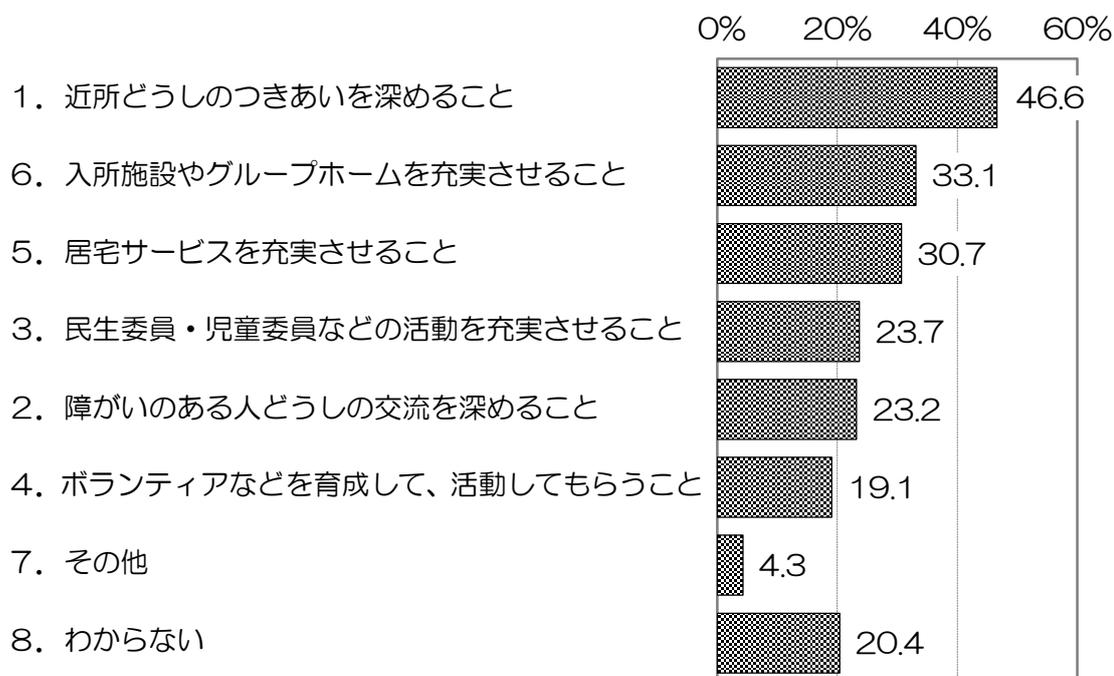
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	519 53.6	140 56.9	82 59.0
2. サービス利用の手続きの簡素化	484 50.0	132 53.7	75 54.0
3. 行政からの福祉に関する情報提供の充実	392 40.5	118 48.0	61 43.9
4. 保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	212 21.9	95 38.6	43 30.9
5. 参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動の充実	112 11.6	58 23.6	28 20.1
6. いろいろなボランティア活動の育成	74 7.6	29 11.8	17 12.2
7. 在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実	319 33.0	72 29.3	39 28.1
8. リハビリ・生活訓練・職業訓練などの施設の充実	208 21.5	62 25.2	35 25.2
9. 地域でともに学べる保育・教育内容の充実	53 5.5	36 14.6	9 6.5
10. 職業訓練の充実や働く場所の確保	58 6.0	88 35.8	51 36.7
11. 障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実	169 17.5	43 17.5	27 19.4
12. 利用しやすい道路・建物などの整備・改善	215 22.2	45 18.3	23 16.5
13. 障がいに配慮した公営住宅やグループホームの整備など、生活の場の確保	184 19.0	107 43.5	37 26.6
14. 災害や緊急時の避難誘導體制の整備	265 27.4	87 35.4	39 28.1
15. 障がい者の理解を促すための福祉教育や広報活動の充実	165 17.0	88 35.8	41 29.5
16. その他	33 3.4	9 3.7	5 3.6
17. 特にない	114 11.8	23 9.3	19 13.7
全体	968 100.0	246 100.0	139 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも全体結果と同様に「なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」(53.6%、56.9%、59.0%)が最も高く、次いで、「サービス利用の手続きの簡素化」(50.0%、53.7%、54.0%)が続いています。

一方、『知的障がい』では「障がいに配慮した公営住宅やグループホームの整備など、生活の場の確保」が43.5%と、他に比べて高くなっており、全体結果も大きく上回っています。

問 25 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするため、どのようなことが重要だと思いますか（あてはまるものすべて）【N=1,301】

障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために重要なことについては、「近所どうしのつきあいを深めること」が46.6%と最も高く、次いで、「入所施設やグループホームを充実させること」(33.1%)、「居宅サービスを充実させること」(30.7%)と続いています。



障がい種別クロス

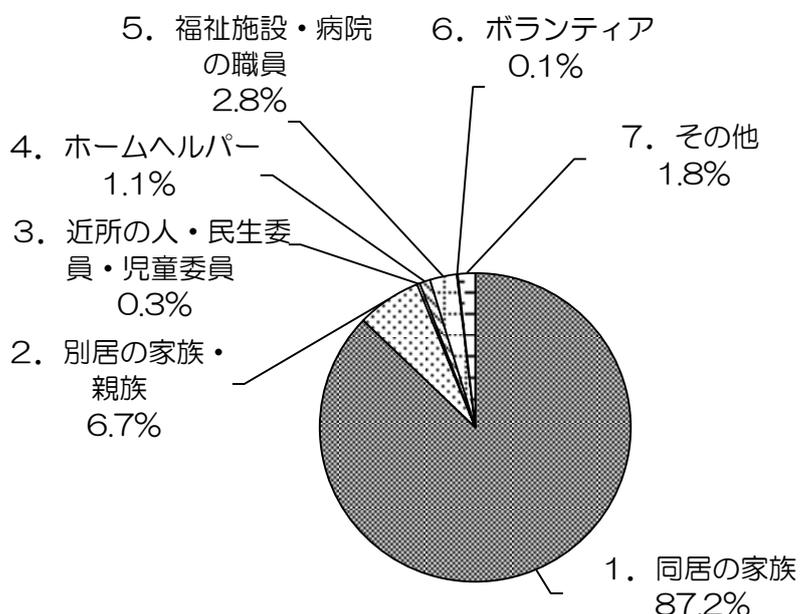
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 近所どうしのつきあいを深めること	463 48.7	104 43.7	43 31.6
2. 障がいのある人どうしの交流を深めること	197 20.7	64 26.9	48 35.3
3. 民生委員・児童委員などの活動を充実させること	233 24.5	53 22.3	23 16.9
4. ボランティアなどを育成して、活動してもらうこと	166 17.5	55 23.1	31 22.8
5. 居宅サービスを充実させること	314 33.1	61 25.6	33 24.3
6. 入所施設やグループホームを充実させること	300 31.6	117 49.2	34 25.0
7. その他	36 3.8	16 6.7	9 6.6
8. わからない	177 18.6	44 18.5	45 33.1
全体	950 100.0	238 100.0	136 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』では「近所どうしのつきあいを深めること」(48.7%)が、『知的障がい』では「入所施設やグループホームを充実させること」(49.2%)が、『精神障がい』では「障がいのある人どうしの交流を深めること」(35.3%)が、それぞれ最も高くなっています。

障がいのある方を「主に介助する人」におうかがいします。

問 26 今回の調査対象である障がいのある方を、主に介助する人はどなたですか。(あてはまるもの1つ)【N=951】

主に介助する人については、「同居の家族」が約9割(87.2%)を占め、「別居の家族・親族」が6.7%、「福祉施設・病院の職員」が2.8%となっています。



障がい種別クロス

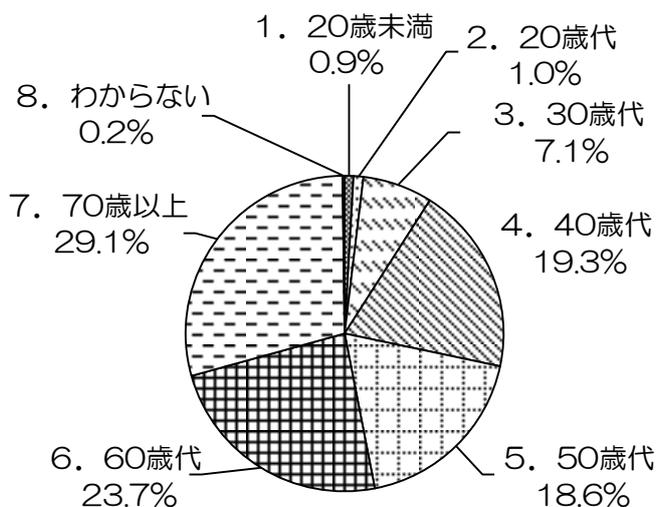
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 同居の家族	585 84.8	197 94.7	67 82.7
2. 別居の家族・親族	60 8.7	3 1.4	4 4.9
3. 近所の人・民生委員・児童委員	3 0.4	1 0.5	1 1.2
4. ホームヘルパー	8 1.2	2 1.0	1 1.2
5. 福祉施設・病院の職員	22 3.2	1 0.5	3 3.7
6. ボランティア	1 0.1	-	-
7. その他	11 1.6	4 1.9	5 6.2
全体	690 100.0	208 100.0	81 100.0

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも「同居の家族」(84.8%、94.7%、82.7%)が最も高くなっています。

問 26 で 1、2 を選んだ方におうかがいします。

問 26-1 主に介助する人の年齢をお答えください。(あてはまるもの1つ) 【N=870】

おもに介助する人の年齢については、「70歳以上」が29.1%で最も高く、次いで、「60歳代」(23.7%)、「40歳代」(19.3%)、「50歳代」(18.6%)と続いています。



障がい種別クロス

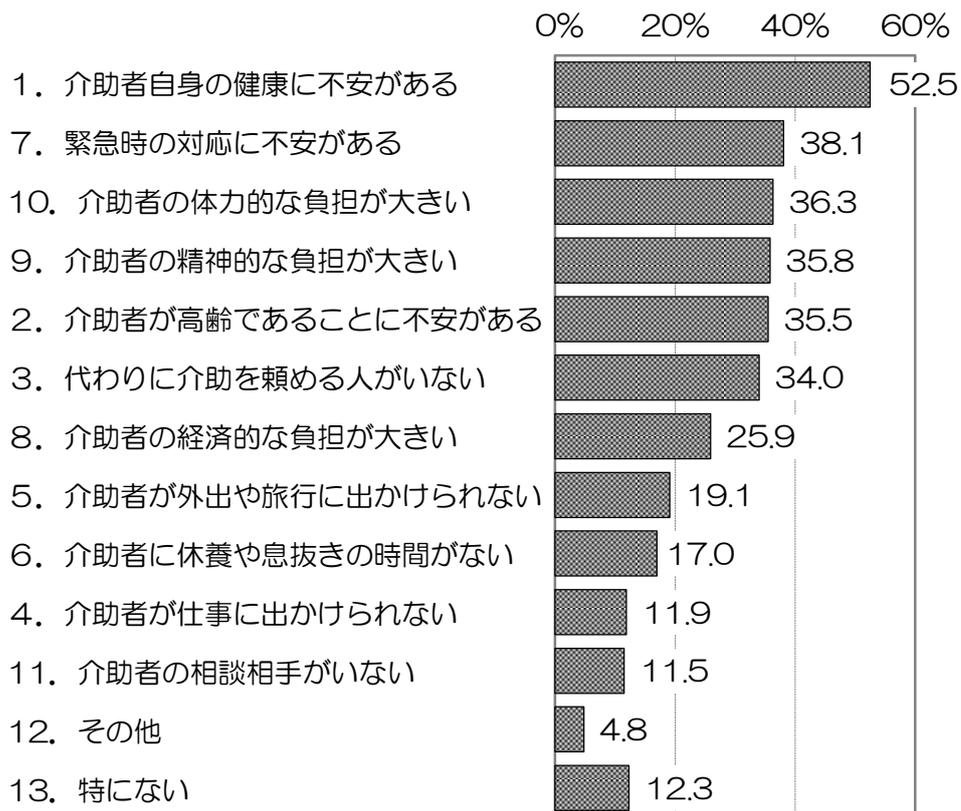
上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 20歳未満	2 0.3	5 2.5	2 2.9
2. 20歳代	5 0.8	3 1.5	2 2.9
3. 30歳代	30 4.8	23 11.7	2 2.9
4. 40歳代	92 14.7	57 28.9	19 27.5
5. 50歳代	114 18.2	52 26.4	5 7.2
6. 60歳代	162 25.8	34 17.3	18 26.1
7. 70歳以上	220 35.1	22 11.2	20 29.0
8. わからない	2 0.3	1 0.5	1 1.4
全体	627 100.0	197 100.0	69 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』、『精神障がい』では「70歳以上」(35.1%、29.0%)が、『知的障がい』では「40歳代」(28.9%)が、それぞれ最も高くなっています。

問 26 で 1、2 を選んだ方におうかがいします。

問 26-2 主に介助をする人（介助者）が、日頃、不安や心配および負担に感じていることは何ですか。（あてはまるものすべて）【N=808】

おもに介助する人が日頃から不安に感じていることや困っていることについては、「介助者自身の健康に不安がある」が 52.5% と最も高く、次いで、「緊急時の対応に不安がある」(38.1%)、「介助者の体力的な負担が大きい」(36.3%)、「介助者の精神的な負担が大きい」(35.8%)、「介助者が高齢であることに不安がある」(35.5%) と続いています。



障がい種別クロス

上段:度数 下段:%	身体障がい	知的障がい	精神障がい
1. 介助者自身の健康に不安がある	313 54.0	101 54.0	31 49.2
2. 介助者が高齢であることに不安がある	226 39.0	46 24.6	22 34.9
3. 代わりに介助を頼める人がいない	195 33.6	81 43.3	18 28.6
4. 介助者が仕事に出かけられない	70 12.1	30 16.0	7 11.1
5. 介助者が外出や旅行に出かけられない	120 20.7	39 20.9	7 11.1
6. 介助者に休養や息抜きの時間がない	104 17.9	39 20.9	9 14.3
7. 緊急時の対応に不安がある	200 34.5	103 55.1	25 39.7
8. 介助者の経済的な負担が大きい	147 25.3	53 28.3	25 39.7
9. 介助者の精神的な負担が大きい	202 34.8	74 39.6	30 47.6
10. 介助者の体力的な負担が大きい	225 38.8	74 39.6	18 28.6
11. 介助者の相談相手がない	52 9.0	28 15.0	15 23.8
12. その他	20 3.4	15 8.0	5 7.9
13. 特にない	79 13.6	17 9.1	3 4.8
全体	580 100.0	187 100.0	63 100.0

障がい種別にみると、『身体障がい』、『精神障がい』では「介助者自身の健康に不安がある」(54.0%、49.2%)が、『知的障がい』では「緊急時の対応に不安がある」(55.1%)が、それぞれ最も高くなっています。

一方、『精神障がい』では「介助者の相談相手がない」が23.8%と、他に比べて高くなっています。